

岸和田市史年表

※「典拠」欄は『岸和田市史』における記載箇所を示し、例えば「六/36」は第六巻36ページに関連史料または記述があることを示しています。また、『岸和田市史』に記載のない事項については、典拠史料〈図書〉名を略記しています。

年	月	事 項	典拠	
			通史編	史料編
587年(用明2)	7月	物部守屋と蘇我馬子との争いに際し、捕鳥部万(ととりべのよろず)は守屋の従者として戦い、敗れて茅渟県有真香邑(ちぬのあがたありまかむら)に逃れるも、戦死。万の飼犬は万の屍を守って餓死し、族人が万と犬を葬り墓を建てる。	一/434	六/36
683年(天武12)	この年	役小角(えんのおづぬ)が神於寺(神於町)を建立したと伝える。	二/661	六/633
716年(霊龜2)	3月	珍努(ちぬ)宮造営のため、河内国から和泉・日根郡を割く。	二/144	六/58
	4月	河内国より大鳥・和泉・日根郡をさいて和泉監(いずみげん)を置く。	二/144	六/59
725年(神龜2)	2月	僧行基、久米田池築造を始める。	二/216	六/299
738年(天平10)	7月	久米田池竣工。行基、隆池院(池尻町、後の久米田寺)を建立。(「行基年譜」は隆池院建立を天平6年、久米田池築造を天平13年とする。)	二/161	六/299
740年(天平12)	8月	和泉監を河内国に合併。	二/150	六/59
754年(天平勝宝6)	3月	下痛脚(しもあなし)村に住む男が、国司の使者という兵士に山直里の麦畠で火をかけられたという。	二/374	六/132
757年(天平勝宝9)	4月	八木郷の布師浄足が画師として東大寺造営に加わる。	二/169	六/94
	5月	河内国から分離し、和泉国が独立する。	二/150	六/95
774年(宝龜5)	この年	百濟から渡来した僧光忍、神於寺を再興するという。	二/662	六/639
804年(延暦23)	10月	桓武天皇和泉国に行幸し、藺生野で狩をする。(藺生野は尾生付近か)	二/166	六/111
815年(弘仁6)	—	「新撰姓氏録」に、掃守連(かにもりのむらじ)氏・掃守田首(かにもりだのおびと)氏・山直(やまのあたえ)氏など本市に関わる氏族の記載あり。	二/109	六/115
823年(弘仁14)	7月	朝廷が積川神社(積川町)に奉幣し雨を祈る。		六/137
836年(承和3)	12月	和泉国の人山直池作・池永兄弟の本居を左京五条に改める。	二/101	六/142
842年(承和9)	10月	朝廷、積川神に従五位下の位階を授ける。		六/147
864年(貞観6)	3月	朝廷、積川神に従四位下の位階を授ける。		六/159
873年(貞観15)	4月	朝廷、積川神に従四位上の位階を授ける。		六/159
890年(寛平2)	この年	主殿貞恒が山直郷の中村荘の地を開発したという。	二/445	
907年(延喜7)	10月	宇多上皇、熊野参詣。	二/312	
927年(延長5)	—	延喜式の神名に、夜疑、兵主、山直、矢代寸、穂椋、楠本、淡路、意賀美、波多、積川の各神社名が見える。		六/184
935年(承平5)	2月	土佐国司の任を終えた紀貫之が船で和泉灘を通り帰京。	二/263	六/203
1004年(寛弘1)	この年	勝福寺(大沢町)が焼失。	二/637	

1065(治暦1)	この年	勝福寺(大沢町)が再建される。	二/637	
1090年(寛治4)	1月	白河上皇、熊野に参詣。以後、度々参詣する。	二/316	六/225
	この年	白河上皇が積川神社の扁額を揮毫したと伝える。	二/663	
1134年(長承3)	2月	待賢門院(藤原璋子)、熊野詣の帰途、池田御所で休息する。	二/317	六/251
1165年(永万1)	6月	積川神社、神祇官へ年貢として櫛を進める。	二/385	六/263
1174年(承安4)	9月	藤原為房が熊野詣の途中、積川王子の前で医師相模介相元と会う。	二/321	六/266
	この頃	和泉守平信兼の久米田寺別当職と前和泉守源季長の伊勢国松山御厨を交換する。	二/337	六/311
1181年(養和1)	12月	積川神社、新熊野社の末社として勅院事・国役等を免除される。	二/322	六/286
1183年(寿永2)	12月	八木・山直・加守郷百姓らが、新たな荘園設置に反対して訴訟し、源行家は荘園設置を認めないと裁決する。	二/296	六/353
1186年(文治2)	5月	八木郷で源行家が頼朝配下の軍勢に討たれる。(「吾妻鑑」等は近木郷とする)	二/343	六/308
1187年(文治3)	8月	和泉国司が久米田寺領の国役等を免除する。	二/350	六/310
1188年(文治4)	12月	摂政九条兼実、久米田寺を九条御堂末寺とする。	二/336	六/311
1199年(正治1)	9月	久米田寺領の国役等が免除される。		六/323
1201年(建仁1)	10月	後鳥羽上皇、熊野詣の途中、池田王子で琵琶法師に給物を下す。		六/325
1204年(元久1)	4月	前関白九条兼実が、久米田寺ほか九条家領を宜秋門院(九条任子)に譲る。	二/386	六/330
1210年(承元4)	4月	修明門院(高倉重子)が熊野詣の途中、積川王子に参拝し、積川神社に奉幣する。	二/323	
	11月	山直出身の僧覚基が高野山検校となる。		六/336
1217年(建保5)	10月	後鳥羽院・修明門院が熊野詣に際し積川神社などに奉幣使を遣わす。	二/323	
1223年(貞応2)	5月	加守郷の田畠が交換によって僧忍昇のものとなる。南郡の初見。	二/381	六/344
1235年(文暦2)	2月	和泉国の在庁官人らが、久米田寺の免田が承久3(1221)年以前に設置されたことを証言する。	二/401	六/349
1248年(宝治2)	12月	山直郷四ヶ里地頭と久米田寺が同寺免田の所有権を争う。	二/388	六/353
1249年(建長1)	6月	土生村地頭代阿念が木嶋郷土生度の田数を注進する。	二/379	六/357
1256年(建長8)	4月	後嵯峨院が沼間荘内長田方預所職を姉小路頭朝に付す。	二/442	
1258年(正嘉2)	4月	後嵯峨院の高野御幸に高野政所の宿直役を勤めた和泉国御家人の中に八木左衛門尉・加守南条義蓮房らがいる。	二/457	六/364
1277年(建治3)	10月	安東蓮聖、東大寺の実玄より久米田寺別当職を買得し、久米田寺再興にかかる。	二/412	六/375
1278年(弘安1)	10月	上野国新田氏一族の岩松経兼が、和泉国五ヶ畑などを嫡男政経に譲る。		「岩松新田文書」
	11月	春日社領山直中村荘に、亀山院の熊野御幸米を納めるよう院より命じられる。		「中臣祐賢記」
1279年(弘安2)	7月	春日社領山直郷中村新荘の領有権をめぐる珍姉子が常葉前らを訴える。	二/445	

1279年(弘安2)	12月	和泉守護北条時村が久米田寺内の殺生禁断を命じる。		六/377
1280年(弘安3)	4月	久米田寺の住僧らが堂舎修復の勸進を行う。	二/420	六/377
	6月	春日社政所が、中村荘に対する阿忍の押領を停止するよう荘官・百姓らに命じる。	二/448	
1282年(弘安5)	5月	久米田寺が朝廷の御祈願所となる。	二/424	六/379
	9月	安東蓮聖の申請により六波羅探題が久米田寺近辺の御家人らの殺生を禁止する。	二/424	六/380
	10月	西大寺叡尊が久米田寺で落成供養の導師を勤め、あわせて非人施行を行う。	二/421	六/381
平清盛が海底から引き上げたという朝鮮半島伝来の梵鐘が久米田寺に届く。		二/422	六/383	
1283年(弘安6)	この年	顕尊が久米田寺住持職を円戒房禅爾に譲る。	二/421	
1286年(弘安9)	閏12月	加守郷の荒野が久米田寺領となる。	二/458	六/386
1287年(弘安10)	9月	中村荘の公文泰家が、興福寺の使者が立てた神木を抜きすてる。	二/449	
1289年(正応2)	2月	久米田寺住持禅爾が久米田池堤防修築の勸進を行う。	二/430	六/389
	閏10月	春日社領中村荘への少将局の濫妨を停止するよう後深草院院宣が下される。		「大和春日神社文書」
1298年(永仁6)	6月	九条家が久米田寺の違背行為を朝廷に訴え、その弁明を命じる伏見天皇綸旨が下される。	二/443	六/406
1299年(正安1)	7月	春日社領山直郷中村新荘の領主権をめぐる争いが決着し、下地を中分する。		六/407
1301年(正安3)	12月	法眼実憲・実舜が、中村荘領主職半分を久米田寺僧食料として寄進する。		六/408
1302年(正安4)	8月	安東蓮聖・助泰父子が、中村荘半分領主職を久米田寺領として安堵する。		六/409
1306年(嘉元4)	6月	昭慶門院(憲子内親王)領の一つとして和泉国沼間庄が見える。	二/442	
1312年(正和1)	12月	久米田寺が池のことで下久米多里地頭と争う。		六/411
1313年(正和2)	3月	湛睿が久米田寺に入る。	二/430	
	11月	八木郷の御家人小西彦太郎ら、久米田寺辺での殺生などによって六波羅探題へ訴えられる。	二/456	六/412
	12月	六波羅探題が、八木彦太郎らを召進めるよう信太覚円に命じる。	二/457	六/412
1314年(正和3)	4月	金剛寺僧禅恵、山直郷田治米村地藏院で釈論第三抄出を写し終る。		六/413
1315年(正和4)	8月	禅恵、山直郷多治米村安楽寺で異尊第三巻を写し終る。		「金剛寺古記」
1316年(正和5)	4月	久米田寺が日根荘(泉佐野市)荒野の開発を請け負う。	二/436	六/413
	閏10月	九条家が久米田寺に日根荘荒野を寄付し、その開発を認める。	二/436	六/416
	11月	二条家が長滝荘(泉佐野市)弥富方下司公文職を久米田寺に寄進する。	二/460	六/418
1318年(文保2)	3月	安東助泰が山直郷下方の年貢を久米田寺修理にあてる。		六/419
1322年(元享2)	9月	禅恵、山直郷多治米村で母の三回忌を営む。	二/529	

1323年(元享3)	3月	禅恵、久米田寺住持盛誉を導師として多治米村の大門供養勸進を行い、村人子息10人が童舞を行う。	二/431	
1325年(正中2)	1月	久米田寺長老禅爾没。		六/422
	2月	平盛泰、土生郷内の田地を久米田寺へ寄進する。		六/423
	10月	安東助泰が山直郷包近下方の年貢を久米田寺僧食料にあてる。		六/425
1326年(正中3)	2月	和泉守護北条茂時が、久米田寺が訴えた荒野内新開田の妨げを停止するよう命じる。	二/435	六/425
1328年(嘉暦3)	7月	安東助泰が播磨国福泊(兵庫県姫路市)の地子を久米田寺経蔵造営のために寄進する。	二/417	六/426
	11月	久米田寺が、下久米田里地頭の寺領乱妨等を朝廷に訴える。	二/462	六/427
1329年(元徳1)	6月	安東蓮聖没。		六/430
1330年(元徳2)	2月	明極楚俊(みんきそしゆん)が安東蓮聖画像(久米田寺蔵)・安東円恵(助泰)画像(奈良国立博物館蔵)・禅爾画像に賛を記す。	二/432	六/431
1332年(元弘2)	12月	大塔宮護良親王、久米田寺の寺領を安堵する。	二/469	六/434
1333年(元弘3)	1月	久米田寺ならびに久米田寺領における官兵の狼藉を禁じる大塔宮令旨を、楠木正成が進達する。		六/434
	10月	大塔宮が、久米田寺領上下包近名を安堵する。		六/441
1334年(建武1)	12月	久米田寺領上下包近名が建武新政府より安堵される。		六/499
	この頃	楠木正成一族の和田高家が当地に築城したという。		「泉州志」
1336年(延元1・建武3)	5月	八木法達・岸和田治氏等が、兵庫湊川合戦に、楠木方として参加し、足利軍と戦う。	二/499	六/502
	6月	岸和田治氏等、竹田河原・造道・六条河原など京都近郊の合戦に加わり足利軍と合戦。	二/502	六/502
	8月	岸和田治氏等、木幡山・阿弥陀峰など京都近郊の合戦に加わり足利軍と合戦。	二/503	六/502
	9月	足利方の畠山国清、樫井城(泉佐野市)で挙兵。岸和田治氏等が畠山軍と戦うも、八木城へ退却。次いで中院定平・橋本正茂らの援軍を得て八木城を攻める畠山軍を追い返し、更に畠山軍が籠った蕃原城(貝塚市)を落とす。	二/504	六/502
	10月	岸和田治氏等、河内東条城(河南町)に籠城。	二/505	六/502
1337年(延元2・建武4)	1月	岸和田治氏等、若松庄・和田・菱木(以上、堺市)・横山(和泉市)に転戦し、足利方の住宅を焼く。	二/505	六/502
		後醍醐天皇が和泉国五箇畑(塔原町・河合町他)地頭職を荒見侍従に安堵する。		「大阪歴史博物館所蔵文書」
	3月	岸和田治氏等、河内古市(羽曳野市)に出陣し、丹下西念等を丹下城(羽曳野市)に追い込める。次いで足利方の細川顕氏軍と野中寺・藤井寺近辺で戦う。	二/505	六/502
	4月	岸和田治氏・同侍従房快智・同大輔房定智等槇尾寺に籠る。次いで横山の敵方住宅を焼く。	二/506	六/506
	5月	岸和田治氏・同定智・同快智・土生義綱・八木法達ら、横山(和泉市)で足利方の軍勢と戦い、追返す。	二/506	六/506
	6~9月	岸和田治氏・同定智・同快智・土生義綱・八木法達ら、足利方の拠る宮里城(和泉市)を攻める。	二/506	六/506
	8月	後醍醐天皇、久米田寺領包近名等の乱妨を停止させる。		六/504
10月	岸和田治氏・同侍従房快智・同大輔房定智等、槇尾寺(和泉市)・金剛寺(河内長野市)に攻めかかる足利軍と戦う。	二/506	六/511	

1338年(延元3・ 暦応1)	4月	南朝の中院定平が久米田寺に禁制を下す。		六/516
	5月	足利直義、久米田寺に全国最初の利生塔を造ることを知らせる。	二/535	六/517
	閏7月	久米田寺が山直郷包近名坪付注文を作成。	二/543	六/519
	10月	和泉守護細川顕氏、土生郷地頭職三分の一を高野山高祖院に寄進する。	「高野山文書」	
	11月	安東高泰、山直郷上方包近名を久米田寺に寄進する。	二/543	六/523
1339年(延元4・ 暦応2)	6月	久米田寺利生塔修造の光明院院宣下る。	二/535	六/524
	8月	足利直義、久米田寺利生塔に仏舍利を奉納する。	二/536	六/524
1341年(興国2・ 暦応4)	9月	金剛寺僧禅恵、金剛寺花菌院において久米田寺長老盛誉から借りた本を写し終る。	二/529	
	11月	幕府、山直郷の住人らが久米田寺境内で殺生を行うことを禁止する。	二/534	六/527
	12月	南朝、久米田寺の包近名知行を安堵する。		六/527
1342年(興国3・ 康永1)	2月	地頭土生義綱・同盛実が土生度内の久米田寺免田を久米田寺へ去り渡す。	二/506	六/528
1344年(興国5・ 康永3)	6月	守護細川顕氏、山直郷内の久米田寺田に対する大平義尚の押妨を禁ずる。	二/534	六/530
	7月	守護細川顕氏が久米田寺領の殺生を禁止する。	二/534	六/530
	11月	守護細川顕氏、久米田寺領加守郷内荒野を安堵する。	二/435	六/531
1350年(正平5・ 観応1)	7月	畠山国清軍、神於寺に籠る南軍を攻め、河井口一坂(河合町付近)で合戦。	二/519	六/533
	11月	足利直義、久米田寺に祈祷を命じる。	二/539	六/534
1351年(正平6・ 観応2)	8月	足利直義、久米田寺に祈祷を懇請。	二/540	六/534
	11月	足利義詮、久米田寺へ凶徒退治祈祷を命じる。	二/540	六/534
1352年(正平7・ 文和1)	3月	足利義詮、久米田寺へ天下静謐祈祷を命じる。		六/535
	5月	松村(下松町・上松町)・加守郷で南北両軍が合戦。	二/523	六/535
	12月	薬師女が、塔原の阿弥陀寺へ銅鉦を奉納する。	「蕃原官座所蔵銅鉦銘」	
1353年(正平8・ 文和2)	11月	南朝が某正尹の包近名地頭職を認める。	二/544	六/540
1357年(正平12・ 延文2)	7月	包近名地頭職をめぐって久米田寺と某正尹が相論。	二/544	六/538
	9月	南朝が、久米田寺の包近名地頭職を安堵する。	二/548	六/541
1360年(正平15・ 延文5)	6月	守護細川業氏、山直郷内包近名・中村東方領家職について久米田寺の知行を安堵する。	二/534	六/547
1361年(正平16・ 康安1)	6月	南朝が久米田寺の末寺支配を安堵する。		六/548
		南朝が久米田池堤修築を命じる。	二/533	六/550
	12月	足利義詮、久米田寺に天下静謐祈祷を命じる。		六/552

1362年(正平17・貞治1)	4月	天性寺の石造地藏菩薩立像が造像される。	二/492	
	この年	沼氏が京都より祇園社を勧請し、牛頭天王社(現、岸城神社)をまつるとい う。	三/459	
1364年(正平19・貞治3)	この年	鳥取法眼が釈迦如来像(浄行寺所蔵)を描く。	二/659	
1368年(正平23・応安1)	9月	南朝が大雄寺(高石市、廃寺)領山直郷国衙分を安堵する。	二/533	六/557
1369年(正平24・応安2)	6月	南朝が久米田寺の包近名地頭職を安堵する。		六/558
	10月	南朝が久米田寺領散在田畠を安堵する。		六/559
	11月	南朝が久米田寺の中村東庄領家職を安堵する。		六/559
1370年(建徳1・応安3)	7月	南朝が、久米田寺領軽部郷(和泉市)等に対する釈尊寺正種の押領を停止す る。	二/526	六/563
	10月	管領細川頼之、塔婆造立のため久米田寺へ馬を奉加する。		六/567
1373年(文中2・応安6)	6月	久米田寺に故豊後守国種法師の忌日田が寄進される。		六/567
1374年(文中3・応安7)	5月	南朝が、山直郷武恒名3分の1を久米田寺の管領とする。		六/568
1379年(天授5・康暦1)	2月	山名氏清、加守郷内の田地を石清水八幡宮に寄進する。		「石清水菊大路家文書」
1387年(元中1・嘉慶1)	11月	弘尊、額原の往生院にて写経する。		「金剛寺古記」
1391年(元中8・明德2)	12月	和泉国守護山名氏清、幕府に叛き挙兵するが、鎮圧され、氏清戦死(明德の 乱)。	二/550	
1393年(明德4)	11月	守護大内義弘が加守郷の久米田寺敷地茶園を安堵する。	二/433	六/577
1396年(応永3)	6月	守護大内義弘が久米田寺に禁制を下す。		六/579
1399年(応永6)	12月	和泉国守護大内義弘、堺で挙兵するが、幕府軍に鎮圧され戦死(応永の乱)。	二/552	
1400年(応永7)	9月	足利義満、岸和田荘半分を石清水八幡宮に寄進する。	二/478	
	11月	幕府が石清水八幡宮領岸和田荘に対する守護段銭賦課を停止する。	二/479	六/581
	12月	興福寺が久米田寺の領有を主張し幕府へ訴える。	二/551	六/582
1401年(応永8)	4月	久米田寺が、興福寺の主張を斥け、幕府の安堵を求める。		六/583
	5月	幕府が、興福寺の訴訟を斥け、久米田寺の別当職領有を安堵する。		六/585
1408年(応永15)	8月	和泉国上守護に細川頼長、下守護に細川基之が任命され、以後、和泉国は管 轄領域を分けずに二人の守護が置かれる。	二/556	
1412年(応永19)	この年	久米田寺再興の勧進が始まる。	二/649	六/588
1416年(応永23)	7月	足利義持、久米田寺を祈願寺とし、寺領を安堵する。		六/589
1426年(応永33)	3月	和泉国惣講師職をめぐる松尾寺と穴師堂の相論について、神於寺が、松尾寺 の主張を否定する証言をする。		六/590
1430年(永享2)	2月	安東貞泰が軽部郷地頭職を久米田寺行基会領に寄進する。	二/543	六/591
1432年(永享4)	11月	高野山高祖院、土生郷地頭職を押領したとして細川満経を幕府に訴え、勝訴 する。		「蜷川家文書」

1447年(文安4)	10月	河内守某が、久米田寺境内殺生禁断の禁制を出す。		六/592
1450年(宝徳2)	8月	和泉国守護細川常有より、久米田寺の中村庄東方領家職半済が久米田寺に返付される。		六/595
1451年(宝徳3)	8月	和泉国で徳政一揆がおこり、鷹司家領五ヶ畑に土一揆に同心せぬよう禁制が出される。	二/560	
1455年(康正1)	7月	幕府、五ヶ畑百姓等に畠山義就軍に加わるよう命じる。	二/564	
	12月	管領細川勝元、久米田寺に祈祷を命じる。		六/596
1462年(寛正3)	7月	和泉国守護細川常有、久米田寺領の人夫その他臨時課役を免除する。		六/597
1469年(応仁3)	3月	和泉国守護細川氏が久米田寺を祈願寺とし、人夫その他の臨時課役を免除する。		六/599
1473年(文明5)	10月	和泉国一揆が国内の諸荘園に兵糧米を賦課、吉井氏など国一揆に加わる。	「葛川明王院文書」	
	11月	僧勢秀が土生度の田地を久米田寺に寄進する。		六/600
1481年(文明13)	4月	土生南衛門が土生度の田地を久米田寺に寄進する。		六/600
1482年(文明14)	8月	畠山政長が八木に陣取る。	「長興宿禰記」	
	12月	僧勢春が土生度の田地を禅伝に売り渡す。		六/601
1483年(文明15)	7月	当時、国衙領八木郷は畠山中務少輔に、加守郷は臨川寺三合院に押領されていた。		六/602
1484年(文明16)	9月	紀州根来寺・粉河寺の衆徒が神於寺・水間寺(貝塚市)を攻め、これを陥れる。		六/602
1485年(文明17)	3月	春木氏が誅伐され、和泉国一揆が平定される。	二/607	六/603
	5月	和泉国下守護細川持久が、佐野の多賀蔵人に対して春木右京進旧領の代官職を宛て行う。	二/608	
	9月	和泉国守護細川元有が、臨川寺三合院領加守郷内の春木氏・磯上氏・藤岡氏跡を押領する。	二/610	六/603
1488年(長享2)	5月	津田村(貝塚市)の城左衛門、岸和田根形城を攻略した功により根来寺より感状を受ける。	「津田家文書」	
1491年(延徳3)	2月	土生直盛が土生度内の田地を久米田寺に寄進する。		六/604
1492年(明応1)	9月	岸和田元氏、佐野荘内井原(泉佐野市)段銭納入についての守護の命令を、井原御百姓中に伝える。	二/600	
1496年(明応5)	2月	和泉国守護細川基経が多賀楠鶴丸に春木荘知行を安堵する。	二/603	
1500年(明応9)	8月	和泉国守護が、土生重長跡の所領を、日根野又五郎に知行させる。		六/605
	9月	紀伊より畠山尚順軍が和泉に侵入し、和泉国守護細川元有・同基経が神於寺で自害。	二/611	
1501年(文亀1)	7月	松村五郎衛門が加守郷内の田地を久米田寺に寄進する。		六/606
1502年(文亀2)	8月	神於寺衆が佐藤惣兵衛・根来寺衆らと共に、日根荘に乱入し、守護の軍勢と合戦。	二/613	
	9月	神於寺衆が九条家領日根荘の日根野村領家方百姓に人足・諸公事を要求する。	二/614	六/607
1503年(文亀3)	4月	本願寺実如、山直郷包近名内岡山(岡山町)に方便法身像を下す。この頃、岡山御坊建立か。	二/597	
	5月	和泉守護が土生城を築くための竹木を国内の寺社本所領に賦課する。	「政基公旅引付」	

1504年(永正1)	6月	神於寺が入山田荘(泉佐野市)の代官に任じられたと称し、入山田の百姓等に諸公事の納入を命じる。		六/608
	7月	神於寺が和泉守護代久枝久盛に、五箇荘(塔原町・河合町他)の返還などを訴える。	二/616	
		九条家が神於寺の不法を守護方に訴える。		六/609
	10月	畠山尚順軍が土生から上神(堺市)に陣替えする。	二/618	
1506年(永正3)	閏11月	僧良泉が堺松坊で入手した法螺貝を神於寺に寄進する。		六/610
1509年(永正6)	3月	岡孫太郎が畠山氏より新在家村(岡山町)4分の1の知行を宛行われる。		六/611
	8月	和泉国守護が、佐野の多賀蔵人に対し、春木氏旧領の代官職知行を安堵する。	二/603	
1510年(永正7)	8月	積川神社の神輿が作られる。	二/663	
1512年(永正9)	3月	燈誉良然、極楽寺(極楽寺町)建立。	「燈誉上人行状絵伝」	
	5月	高野南坊任秀が八木郷の田地を久米田寺に寄進する。		六/611
1516年(永正13)	この年	了正坊、浄行寺(額原町)中興。	二/598	
		浄念寺(尾生町)開基。	二/599	
1518年(永正15)	4月	土生南衛門太郎が土生度内の田地を久米田寺に寄進する。		六/613
1523年(大永3)	この年	中務が円勝寺(大町)開基。	二/599	
1524年(大永4)	2月	松村の光心坊が松村内の畠地を熊取の中左近に売る。		六/613
1527年(大永7)	8月	日根野加賀入道が守護より新恩として内畑の知行を認められる。		六/614
1529年(享禄2)	5月	松浦守が、久米田池堤の管理をめぐる池郷と田治米村との相論につき、裁許を下す。久米田池郷の初見。	三/211	
1530年(享禄3)	12月	鶴原(泉佐野市)のくすいぬ女が、木島荘(貝塚市)内の田地を神於寺中正院に売る。		六/615
1532年(享禄5)	2月	本願寺証如、山直郷三田村に方便法身像(正楽寺蔵)を下す。	三/591	
	7月	僧勸行が、金剛寺(河内長野市)で、牛滝山本堂修理の勸進状を作る。		六/615
1536年(天文5)	この年	信濃の人加藤主計が円成寺(本町)を建立と伝える。	「岸和田志」	
1541年(天文10)	9月	本願寺証如、山直郷中村に方便法身像(安楽寺蔵)を下す。	三/591	
1544年(天文13)	1月	燈誉良然、知恩院住職に任じられ、法然333回忌法会の導師をつとめる。	三/542	
1548年(天文17)	5月	岸和田左馬允、池水に入り死去する。	「朽木集」	
1549年(天文18)	1月	三好長慶・松浦守らの反乱に対し、近江守護六角定頼が岸和田兵衛大夫に加勢を求める。	二/624	六/617
	5月	岸和田衆が、河内を攻めるため堺北荘(堺市)に陣取る。	「細川両家記」	
1550年(天文19)	6月	九頭神の衛門が河合村の屋敷地を根来寺成真院に売る。	二/581	六/618
1554年(天文23)	この年	燈誉良然が春木の西福寺を再興する。	「燈誉上人行状絵伝」	

1558年(永禄1)	この頃	三好長慶が、松浦万満の泉州支配を承認、十河一存・岸和田周防守が万満を後見する。	「九条家文書」	
1562年(永禄5)	3月	三好実休軍と紀州から来攻した畠山高政軍が久米田寺辺で合戦、実休は流れ矢にあたり戦死。	二/629	六/620
1566年(永禄9)	2月	松浦孫八郎、和泉国衆ら、畠山高政軍に加わり家原(堺市)で三好三人衆軍と合戦し、敗れて岸和田城に籠る。	「九条家文書」	
	8月	松浦肥前守虎が極楽寺(極楽寺町)に禁制を下す。		七/3
1571年(元亀2)	この年	泰誉、岸和田城の北にあった光明寺を本町に移し、中興する。	二/594	
		弥勒寺(塔原町)開基。		五/42
1572年(元亀3)	11月	松浦光、久米田池郷と尾生との相論について裁定する。	三/211	
1573年(元亀4)	1月	信長衆として松浦氏(光カ)が岸和田在城。	「尋憲記」	
1575年(天正3)	4月	松浦光、岸和田池(流木町)築造に際し、岸和田荘に水利に関する掟を下す。	三/200	七/432
	12月	松浦肥前守光が織田信長に進物をし、信長より返状が来る。	三/12	
1576年(天正4)	7月	織田信長が沼間任世・寺田又右衛門らに大坂出馬に備えて作毛の刈り取りを命じる。	三/13	
		木津川口(大阪市)で本願寺方の毛利軍と信長軍が合戦し、信長方の真鍋貞友・沼間義清ら多くの和泉衆が討ち死にする。	三/15	
1577年(天正5)	2月	織田信長、雑賀討伐のため出陣、和泉国香庄(神於町付近か)に陣す。	三/19	
	10月	根来寺岩室坊・泉識坊が極楽寺に禁制を出す。	「極楽寺文書」	
1580年(天正8)	8月	寺田又右衛門・松浦安太夫、岡山御坊を焼く。	「岡山来由」	
1581年(天正9)	1月	織田信長が京都で馬揃を行い、寺田又右衛門・松浦安太夫・沼間任世らが参加を命じられる。	三/22	
	3月	織田信長、堀秀政に命じて和泉国で指出実施。	三/22	
	7月頃	織田信長家臣の津田信張・蜂屋頼隆が岸和田城に入る。	三/27	
1583年(天正11)	4月	羽柴秀吉、中村一氏を岸和田城におく。以後、岸和田城の軍勢と、近木川沿いの千石堀・積善寺・畠中城などに拠る根来寺勢との合戦続く。	三/30	
1584年(天正12)	3月	根来寺・雑賀衆の軍と岸和田城の中村勢が合戦、根来寺・雑賀衆は敗れて退却する(岸和田合戦)。	三/34	
1585年(天正13)	3月	羽柴秀吉、根来・雑賀征伐のため、岸和田城に入る。近木川沿いの諸城を落とし、根来寺を攻め壊滅させる。	三/35	
	5月	中村一氏、岸和田城から近江国水口城に移る。桑山重晴・木下家定らが城番を勤める。	三/39	
	7月	小出秀政(秀吉の叔父)、岸和田城主となる。秀吉より岸和田・貝塚周辺に知行4000石を給される。	三/39	
1587年(天正15)	9月	小出秀政に五ヶ畑、土生、尾生など6千石が扶助され、計1万石となる。	三/39	
1589年(天正17)	この年	浄信、浄円寺(北町)を開基。	「岸和田志」	
1591年(天正19)	この年	薫誉、西方寺(五軒屋町)を中興。	「岸和田志」	
1593年(文禄2)	この年	玉誉、正覚寺(宮本町)を中興。	「岸和田志」	
1594年(文禄3)	8月	豊臣秀吉、和泉国で検地を行う。	三/40	六/673

1595年(文禄4)	8月	小出秀政、大鳥郡・日根郡などに2万石加増され、計3万石となる。	三/39	
	この年	小出秀政、岸和田城天守閣造営にかかる。	三/154	
		円成寺(本町)中興。		「岸和田志」
1597年(慶長2)	この年	岸和田城天守閣竣工。	三/154	
1599年(慶長4)	この年	明智光秀の子南国梵桂、鳥羽村(貝塚市)に海雲寺(本徳寺〈五軒屋町〉の前身)建立。		「岸和田志」
1600年(慶長5)	8月	積川弥五郎、増田長盛に属し伏見城に攻めて討死する。		「積川神社文書」
	この年	小出秀政、円教寺(五軒屋町)建立。		「岸和田志」
1602年(慶長7)	この年	紀州街道が整備される。	三/160	
1604年(慶長9)	3月	小出秀政没。秀政の長子吉政、但馬出石より岸和田城に移り、岸和田城主となる。	三/62	
	8月	幕府、和泉国で指出実施。指出奉行の一人小出将介は作才村を知行する。	三/64	
	この年	来迎寺(下野町)中興。		「岸和田志」
1605年(慶長10)	9月	和泉国絵図作成される。	三/66	
1613年(慶長18)	2月	小出吉政没。	三/62	
	3月	吉政の長子吉英、但馬出石より岸和田に移り、岸和田城主となる。	三/62	
1614年(慶長19)	10月	大坂冬の陣。小出吉英、徳川方として出陣。岸和田城番として松平信吉が入る。	三/67	
	11月	松平信吉に代わり、北条氏重が岸和田城番を命じられる。	三/69	
1615年(元和1)	4月	大坂夏の陣。小出吉英・弟吉親が岸和田城を守り、金森可重・伊藤治明らも加勢する。大坂方の大野治胤・榎嶋玄蕃軍、岸和田城を包囲する。和歌山城より北上した浅野長晟軍との樫井川合戦で敗れた大野軍は、包囲を解き退却。小出吉英、岸和田城を出てこれを追撃し、戦果をあげる。	三/71	
	9月	沢庵宗彭来岸。日光寺(岸城神社境内にかつてあった寺院)にしばらく滞在し、但馬国出石城下の宗鏡寺(兵庫県豊岡市)再興を小出吉英に願い出る。		「沢庵和尚紀年録」
	10月	大威徳寺の衆徒と穀屋が本坊住持職をめぐる対立し、衆徒が幕府へ訴える。	二/589	
	この年	薬師院(宮本町)開基。		「岸和田志」
1616年(元和2)	この年	得誉、天性寺(南町)開基。		「岸和田志」
1617年(元和3)	この年	日受、本昌寺(五軒屋町)開基。		「岸和田志」
1619年(元和5)	12月	小出吉英、但馬国出石に移る。松平(松井)康重、丹波篠山(兵庫県篠山市)より移り、岸和田城主となる。5万石。入城後まもなく幕府の命により浜辺石垣を築く。	三/78	
1620年(元和6)	12月	新在家村と三田村が、岡山をめぐる山論。八木郷・山直郷11か村庄屋らが仲介し和解。		七/505
	この年	土生村が諸井口に新たに中堤を築いたとして、阿間河滝村と相論となる。		七/435
1622年(元和8)	5月	新在家村と三田村が、岡山をめぐる山論。		七/505
1623年(元和9)	この年	伏見城から岸和田城二の丸に櫓を移築する(伏見櫓)。		「古今重宝記」

1628年(寛永5)	この年	円蒼、浄福寺(下松町)中興。	二/653	
1631年(寛永8)	3月	松平康重、幕府に増高を願い出、許されて岸和田藩は6万石となる。	三/169	
1634年(寛永11)	6月	阿間河滝村と土生村、諸井堰の水利につき相論。		七/432
1636年(寛永13)	5月	阿間河滝村と土生村、諸井堰の水利につき相論。		七/432
1638年(寛永15)	5月	久米田池郷村々が、尾生村が八田川上流に新池を築くことを差し止めるよう、奉行へ訴える。	三/212	七/438
1639年(寛永16)	6月	阿間河滝村と土生村、諸井堰の水利につき相論。		七/435
1640年(寛永17)	6月	松平康重没。	三/82	
	8月	松平康映(やすてる)、封を継ぎ岸和田藩主となる。	三/82	
	9月	松平康映、播磨国山崎(兵庫県宍粟市)に転封。岡部宣勝(のぶかつ)、摂津国高槻より岸和田城に移る(6万石)。宣勝の岸和田入城に際し、藩領の百姓らが岸和田欄干橋に集合して年貢減額の強訴をし、川崎久左衛門が津田川畔で斬首されたという。	三/82	
1642年(寛永19)	9月	岸和田浦と春木浦の漁場相論につき、漁法について取り決める。	三/296	
1643年(寛永20)	この年	岡部宣勝、浅草本誓寺にて朝鮮通信使接待役を勤める。		「岸和田藩志」
1645年(正保2)	5月	岡部宣勝、葛城山で山狩を行い、八大竜王社殿を復興する。		「岸和田藩志」
	この年	松江重頼撰の俳諧集『毛吹草』刊行。岸和田藩士岡部元綱の句が入集する。	三/387	
		岸和田藩、幕府の命により岸和田城絵図(内閣文庫所蔵)を提出。	三/157	
1647年(正保4)	この年	松江重頼撰の俳諧集『毛吹草追加』刊行。岸和田藩士岡部元綱の句が入集する。	三/387	
1650年(慶安3)	この年	浄光寺(沼町)中興。		「岸和田志」
1651年(慶安4)	10月	鶏冠井良徳撰の俳諧集『崑山集』刊行。岸和田弥三兵衛中好の句が入集する。	三/388	
1652年(承応1)	この年	岡部宣勝、梅溪寺(南町)を建立し、洞仙院(宣勝母)の位牌を安置する。		七/43
		真壁新左衛門らが真上新田(真上町)の開墾に着手する。	三/247	
1655年(明暦1)	この年	岡部宣勝、浅草本誓寺にて朝鮮通信使接待役を勤める。		「岸和田藩志」
		真壁新左衛門らの開墾が竣工し、真壁村(後、真上村)と称す。	三/247	
1656年(明暦2)	8月	安原貞室撰の俳諧集『玉海集』刊行。岸和田在住の俳人良辰の句が入集する。	三/389	
1657年(明暦3)	6月	岡部宣勝、半田村(貝塚市)に海岸寺を建立し、歴代將軍の位牌を安置する。		七/40
1658年(万治1)	3月	高瀬梅盛撰の俳諧集『鸚鵡集』刊行。八木郷在住の俳人津田安政・貞政の句が入集する。	三/390	
	9月	富永燕石撰の俳諧集『牛飼』刊行。岸和田の俳人渡辺尖の句が入集する。	三/390	
1660年(万治3)	7月	阿知子頭成撰の俳諧集『境海草』刊行。八木郷在住の俳人津田安政の句が入集する。	三/401	
	10月	松江重頼撰の俳諧集『懐子』刊行。岡部元綱ら岸和田藩士の句が多く入集する。	三/390	

1660年(万治3)	この年	作才村庄屋ら逃散する。	「森下家文書」	
1661年(寛文1)	10月	岡部宣勝隠居し、行隆、封を継ぐ。5千石を弟高成に、2千石を弟豊明に分知し、本知5万3千石となる。	三/86	
1662年(寛文2)	11月	西本願寺の良如・寂如より円満寺(岡山町)に木仏が下される。	二/599	
	この年	岸和田藩、初めて藩札を発行する。(全国で2番目)	三/91	
1663年(寛文3)	3月	正法寺成安撰の俳諧集『埋草』刊行。八木郷在住の俳人津田安政・貞政の句が入集する。	三/402	
1664年(寛文4)	2月	久米田池普請費用の負担をめぐる吉井・箕土路村が春木村を岸和田藩へ訴える。	三/213	
1665年(寛文5)	4月	岡部行隆、家中へ7か条の法度を出す	「岸和田藩志」	
1666年(寛文6)	この頃	城地拡大に伴い、岸城神社付近の百姓家8軒を池之尻(上町)に、岸和田村墓地を春木川河畔の加守共同墓地の北側に移したという。	三/156	
1667年(寛文7)	この年	岡部行隆、葛城山八大竜王社に木積村(貝塚市)の新田5反を寄進する。	三/362	
1668年(寛文8)	10月	岡部宣勝没。隠居所を泉光寺(門前町)とし、以後岡部家の菩提寺となる。それまで菩提寺であった雄心寺(南町)は廃寺となる。	三/602	七/42
1669年(寛文9)	この年	土生村、河合村内に山池を築く。	三/237	七/435
1670年(寛文10)	この年	南方由撰の俳諧集『寛伍集』刊行。岸和田の中好、下池田の正盛、春木の残嶺らの句が入集する。	三/403	
1671年(寛文11)	この年	池嶋成之撰の俳諧集『塵塚』刊行。岸和田の一法、下池田の正盛、春木の残嶺、山直の可快、荒木の正都、中井の永盛、箕土路の重綱、八木の津田安政、今木の長僉らの句が入集する。	三/403	
		高滝以仙撰の俳諧集『落花集』刊行。岸和田の政親・当林・秀仲の句が入集する。	三/405	
1672年(寛文12)	この年	阿知子頭成撰の俳諧集『手繰舟』刊行。八木の正慶、今木の長僉、下池田の正盛、春木の重賢らの句が入集する。	三/404	
1676年(延宝4)	1月	岸和田藩、売田地請戻令を発布。	三/312	
	3月	塔原村と河合村、炭山をめぐる山論。		七/507
	この年	岸和田藩、藩札発行。	三/122	
1677年(延宝5)	6月	和泉国内の幕府領で検地始まる(延宝検地)。	三/188	
1678年(延宝6)	7月	河合・尾生村と三田・包近村が神於寺境内につき相論。		七/510
1679年(延宝7)	この年	岸本調和撰の俳諧集『富士石』刊行。岸和田の中好の句が入集する。	三/406	
1680年(延宝8)	この年	大坂の和気遠舟が須磨寺開帳に奉納するために俳諧集『太夫桜』を編集し、岸和田の秋詠・許之・光忠と今木の長僉の句が入集する。	三/406	
1681年(天和1)	この年	岸和田藩、藩札発行。	「和泉古楮幣図譜」	
1682年(天和2)	この年	岡部行隆、大坂西本願寺にて朝鮮通信使接待役を勤める。	「岸和田藩志」	
		岸和田藩、藩札発行。	三/122	
1685年(貞享2)	この年	岸和田藩、藩札発行。	三/122	
1686年(貞享3)	1月	吉井・中井・箕土路・西大路・東大路・磯上・荒木・下池田・小松里村と池尻・大町村の一部が幕府領から武蔵国岩槻藩領となる。	三/95	
		春木村の小百姓が、庄屋藤右衛門の村政運営に不正ありとして藩へ訴える。	三/319	

1686年(貞享3)	閏3月	塔原村と河合村、炭山をめぐり山論。		七/510
	5月	阿間河滝村が、諸井堰の取水を土生村が妨げたとして岸和田藩へ訴える。	三/237	七/435
	8月	岡部行隆隠居し、長泰、封を継ぐ。	三/92	
	11月	岡部長泰、家中へ儉約等5か条法度を出す。		「岸和田藩志」
1687年(貞享4)	3月	岸和田藩、領内へ22か条法度発布。		「岸和田藩志」
	12月	岡部行隆没。		「寛政重修諸家譜」
1692年(元禄5)	この年	岸和田藩、藩札発行。	三/122	
1694年(元禄7)	4月	今木・摩湯村と包近村の一部が常陸国土浦藩領となる。	三/96	
1695年(元禄8)	5月	岡部長泰、人見必大著『本朝食鑑』に序文を寄せる。	三/447	
1696年(元禄9)	この頃	稲津清流撰『住古物語』刊行。岸和田の俳人香水・感々・細石の句が入集する。	三/407	
1697年(元禄10)	7月	三田・(山直)中・稲葉・積川・内畑村が武蔵国川越藩領となる。	三/97	
1700年(元禄13)	9月	紀州藩が、葛城八大竜王社の玉垣の内、紀州藩領にはみ出た部分を切る。		「葛城峰宝仙山万覚書」
1701年(元禄14)	この年	大淀三千風撰『倭漢田鳥集』刊行。岸和田の俳人香水の句が入集する。	三/409	
1702年(元禄15)	11月	岸和田藩、幕府より江戸渋谷の下屋敷を拝領する。		「古今重宝記」
1703年(元禄16)	9月	京都伏見より城内三の丸に稲荷社を勧請する。	三/460	
1704年(宝永1)	4月	岸和田藩、大和川付替工事につき、手伝いを命ぜらる。	三/92	七/28
	12月	三田・(山直)中・稲葉・積川・内畑村が幕府領となる。	三/97	
1705年(宝永2)	8月	岸和田藩、領内村方へ百姓取締りのため11か条触書発布。		七/137
1706年(宝永3)	5月	河合・尾生村と三田村が神於山の用益につき相論。		七/511
	この年	真上村が真上新田と改称する。	三/247	
1707年(宝永4)	10月	大地震により、岸和田城大手門前まで浸水。		「かりそめのひとりごと」
1708年(宝永5)	11月	岸和田藩、木綿不作につき、この年に限り年貢を減免する。		七/139
1711年(正徳1)	2月	吉井・中井・箕土路・西大路・東大路・磯上・荒木・下池田・小松里村と池尻・大町村の一部が幕府領となる。	三/95	
	12月	三田・(山直)中・稲葉・積川・内畑村が常陸国土浦藩領となる。	三/96	
	この年	岡部長泰、大坂西本願寺にて朝鮮通信使接待役を勤める。 頓求、金福寺(加守町)を建立する。		「岸和田藩志」 二/638
1713年(正徳3)	3月	破鏡尼(松尾芭蕉門弟の菅沼曲翠の妻、岸和田藩士の娘)が、夫曲翠と共に近江膳所から岸和田へ旅する。	三/410	
	この年	堺の小野田芦帆齋が著した『泉陽俳諧作者部類』に、俳人として内畑の医師近藤卜石(梅庵)の名が見える。	三/409	

1719年(享保4)	この年	岡部長泰、大坂西本願寺にて朝鮮通信使接待役を勤める。	「岸和田藩志」	
1721年(享保6)	9月	岡部長泰隠居し、長敬 <small>(ながたか)</small> 、封を継ぐ。	三/92	
1722年(享保7)	7月	岸和田藩、領内浦々へ漁民取締りのため3か条触書発布。		七/140
	11月	岸和田藩の軍制(享保備定)を定める。		七/3
1724年(享保9)	7月	岡部長泰没。岡部長敬没。	三/92	
	9月	岡部長著 <small>(ながあきら)</small> 封を継ぐ。	三/90	
		岸和田藩、家中へ16か条条目を発布。		七/32
1728年(享保13)	6月	岸和田藩、領内村方へ支配入用等について21か条触書を発布。		七/141
1729年(享保14)	10月	尼崎浦の漁民が打瀬網をもって泉州沿岸の漁場を荒らしたとして、岸和田浦・大津浦の年寄が尼崎浦年寄と対談、尼崎の打瀬船は泉州地方へ近寄らないこととする。	三/330	七/386
1730年(享保15)	春	新在家村百姓が水込溝(栄川)に設置した水車が用水の妨げになるとして、久米田池郷が訴える。	三/214	
	この年	岸和田藩、藩札発行。	三/122	
1731年(享保16)	5月	牛滝川からの取水をめぐり、新在家村と久米田池郷の相論となる。	三/215	
1737年(元文2)	この年	鳥羽(貝塚市)の海雲寺を五軒屋町に移し、本徳寺と改める。	「岸和田志」	
1738年(元文3)	12月	岡部長著、浦田村(貝塚市)の地蔵堂を岸和田村に移し十輪寺(野田町)とする。開山は盧山。	三/541	
1739年(元文4)	3月	岡部長著、岡部氏岸和田入城100年を祝い領内で鹿狩実施。		
	6月	岡部長著、葛城山八大竜王社に鳥居・石灯笼を寄進する。	三/362	
1743年(寛保3)	4月	岡部長著、葛城山八大竜王社に宝篋印塔を寄進する。	三/362	
	11月	岸和田藩、干鯛の高値売買・囲置きを禁止する。		七/397
1745年(延享2)	8月	北町の茶屋新右衛門の提案で祭礼時に家々の軒に神灯を掲げはじめる。藩主より両宮(岸城社・三の丸稻荷社)に大幟4本奉納、町方へ小幟と杵入り太鼓を下される。町方の子供らが紅の投頭巾をかぶり町中を廻る。	三/460	
	9月	尼崎浦の打瀬船が以前の取り決めに背いて泉州近海で漁をしているとして泉州浦々と争論。		七/386
1746年(延享3)	8月	城下の5町(本・南・堺・北・魚屋町)が「軽き引檀尻」に「作り物」を付けて出す。(檀尻の初見)	三/461	
	9月	尼崎浦漁民が、前年に岸和田浦漁民らに乱妨を受け、網を切り取られたとして堺奉行所へ訴える。	三/331	
1747年(延享4)	4月	内畑村が一橋家領となる。	三/98	
	この年	岸和田藩、藩札発行。		
1748年(寛延1)	5月	岡部長著、大坂西本願寺にて朝鮮通信使接待役を勤める。	「岸和田藩志」	
	8月	祭礼の城入につき、くじで町・浜の先後を決めるよう藩より命じられるも、その後、先例通り町が一番に城入りするよう命じられる。	三/473	
1750年(寛延3)	9月	三之丸稻荷神社祭礼に、引檀尻・神輿・太神楽等が出る。また藩主岡部長著が相撲を見る。	三/462	

1751年(宝暦1)	2月	朝比奈丹下、土生八幡宮の護摩堂を本尊十一面観音像とともに移し、観藏院(五軒屋町)を建立。	「岸和田志」	
	この年	岸和田藩領村々の願い出により、定免(じょうめん：一定期間、作柄に関わりなく年貢率を固定する)実施。		七/185
1752年(宝暦2)	8月	岸和田御宮(岸城神社)祭礼に北裏町が神輿、中町・中之裏町・中之浜が引檀尻、北大手筋が小檀尻、大工町が荷い檀尻を出す。	三/462	
	10月	荒木村と春木村が水論、大坂町奉行へ訴える。	三/216	
1753年(宝暦3)	2月	三之丸稻荷神社に正一位の神階が贈られる。	三/460	
	6月	荒木村と春木村の水論和解する。	三/216	
1755年(宝暦5)	5月	阿間河滝村と土生村の諸井堰の水論につき、岸和田藩が裁定し、覚書を交わす。	三/238	七/433
1756年(宝暦6)	5月	岡部長著隠居し、長住 <small>(ながすみ)</small> 、封を継ぐ。	「寛政重修諸家譜」	
	6月	岡部長著没。	「寛政重修諸家譜」	
1757年(宝暦7)	6月	渋谷の岸和田藩下屋敷と赤坂今井谷の岡部吉五郎屋敷を交換し、岸和田藩下屋敷が赤坂今井谷に移る。	「古今重宝記」	
	7月	岸和田藩、領内町方へ24か条の触書発布。	「岸和田藩志」	
1758年(宝暦8)	5月	岸和田藩、冠婚葬祭に関して町方へ触書10か条発布。	「岸和田藩志」	
1762年(宝暦12)	6月	相池(下松町)の水利をめぐる藤井・野村と沼・別所村が相論。	三/229	
1763年(宝暦13)	この年	大沢村が清水家領となる。	三/99	
1764年(明和1)	1月	岡部長住、大坂西本願寺にて朝鮮通信使接待役勤める。	「岸和田藩志」	
1765年(明和2)	3月	岸和田藩、領内村方へ儉約令発布。	「岸和田藩志」	
1772年(安永1)	4月	岡部長住隠居し、長修 <small>(ながなお)</small> 封を継ぐ。	三/93	
	8月	岸和田藩、領内村方に3か条触書発布。	「岸和田藩志」	
	12月	岸和田藩、領内村方に24か条触書発布。	「岸和田藩志」	
1774年(安永3)	2月	堺奉行所が泉州鋳物師の株仲間結成を許可し、岸和田村の金屋佐吉が株仲間に加わる。	三/281	
1776年(安永5)	8月	岡部長修隠居し、長備 <small>(ながとも)</small> 封を継ぐ。	三/93	
1777年(安永6)	11月	吉井・中井・箕土路・西大路・大町村と池尻・新在家村の一部が常陸国笠間藩領となる。	三/96	
1779年(安永8)	4月	久米田池堤防決壊。	「かりそめのひとりごと」	
1781年(天明1)	冬	河合村に築登池を築く。	三/234	
1782年(天明2)	8月	大鳥郡の一橋家領一揆につき岸和田藩出兵(千原騒動)。	三/493	
	この年	磯上村が遠江国相良藩領となる。 岸和田藩、尾張・美濃・伊勢の川普請手伝役を勤める。	三/96 三/124	七/154
1783年(天明3)	8月	鯛屋貞柳追善の狂歌集『栗のおち穂』に久米田寺の露橋の句が入集する。	三/420	

1783年(天明3)	この年	栗下亭木端追善の狂歌集『栗置裏〈くりのおきつと〉』に岸和田の狂歌師甘果亭梅州の句が入集する。	三/420	
1784年(天明4)	8月	荒木・下池田村と池尻・小松里村の一部が山城国淀藩領となる。	三/97	
	この年	この年から、「かこひ檀尻」という、屋根は杉板に破風をつけ、蛇腹は墨や紅などで塗り、すだれをかけた檀尻を四方から4人で担い、囃子・太鼓・三味線・はちすり・鉦の鳴り物入りでにぎやかにねり歩いたという。	三/463	
1785年(天明5)	この年	北町が大津から古い檀尻を借り、城門を通るために柱を仕替えて城内へ入れる。	三/461	
1786年(天明6)	5月	岸和田藩、領内浦々へ、魚類を貝塚の間屋へ売らず、城下へ積み廻すよう触を出す。	三/272	七/352
1787年(天明7)	10月	岡部長備、田沼意次の居城であった遠江国相良城の接收役を命ぜらる。相良藩領であった磯上村が幕府領となる。	三/93	
1788年(天明8)	5月	和泉国中の村々が、干鰯価格の値下げ・堺線綿延売買会所の廃止・菜種等の自由販売・秤改め方法の改善・虚無僧の取り締まりを求めて、堺奉行所へ訴願する。	三/324	
1789年(寛政1)	6月	久米田池郷と田治米村の水論、和解する。	三/216	七/446
	秋	岸和田藩、檀尻が多くなり混雑するため、町・浜・村三所が申し合わせて6月と8月祭礼に隔番に出すよう命じる。これに対し、町・浜・村は6月祭礼には出さず、8月のみ隔番で出すこととする。	三/469	
1790年(寛政2)	6月	吉井・中井・箕土路・西大路・大町・今木・摩湯・三田・(山直)中・稲葉・積川・新在家・大町村と池尻村の一部が幕府領となる。	三/96	
1791年(寛政3)	7月	小松里村と大町・下池田村との久米田池用水溝についての相論が和解する。	三/217	七/447
	8月	岸和田藩浦奉行伴丈右衛門、魚之棚川尻に波除けを築き船入場とする。	三/299	
1792年(寛政4)	7月	別所・藤井・沼・野村と下松村が、相池(下松町)の水利について相論。	三/230	七/452
		久米田池郷11か村が古法古格の遵守を誓う申合書を締結する。	三/221	七/450
	8月	岸和田藩、祭礼の際に俄狂言を行うことは許可するが、着物に絹・紬を用いることを禁じる触を出す。	三/466	
	9月	五箇荘において、八大竜王社の宮本を主張する塔原村と、それを認めない他4ヶ村が相論。	三/365	七/515
1794年(寛政6)	3月	岸和田藩、再度領内浦々へ、魚類を貝塚の間屋へ売らないようにとの触を出す。	三/272	七/352
1795年(寛政7)	4月	藤井村が村内に寛政池を築く。	三/234	
	11月	岡部長修没。		「寛政重修諸家譜」
	この年	大沢村が幕府領となる。	三/99	
1798年(寛政10)	3月	城下の5町が、近郷の商人差し止め、または、家別毎月1人ずつ人足差し出しを藩へ嘆願。		七/468
1799年(寛政11)	1月	再び城下の5町が、近郷の商人差し止め、または、家別毎月1人ずつ人足差し出しを藩へ嘆願。		七/469
1803年(享和3)	11月20日	岡部長備没。長慎 <small>(ながちか)</small> 封を継ぐ。	三/93	
1805年(文化2)	8月	伊能忠敬、泉州沿岸測量。		「岸和田藩志」
	この年	岸和田藩、甲州・尾張・伊勢の川浚え役を勤める。	三/124	七/154
1807年(文化4)	2月	巖菅陳阿、光明寺(本町)第15世住職となる。	三/439	

1808年(文化5)	8月	藩より祭礼時の檀尻の城入りの先後について町・浜は隔年にせよとの命に対し、城下の5町(本・南・塚・北・魚屋町)より、5町が先に城入りしてきた経緯を述べて再考を嘆願する。	三/474	
1809年(文化6)	8月	岡部長住没。		「岸和田藩志」
1810年(文化7)	11月	『狂歌手毎の花 初編』に、調音美(光明寺僧陳阿)・宇津氏丸・乾有丸ほか多くの岸和田の狂歌師の句が見える。	三/420	
	この年	狂歌集『狂歌友のかきほ』に、岸和田の狂歌師安丸・有丸の句が入集する。	三/420	
1813年(文化10)	2月	『狂歌手毎の花 四編』に、調音美(光明寺僧陳阿)・野辺草風・乾有丸ほか多くの岸和田の狂歌師の句が見える。	三/423	
1814年(文化11)	2月	岸和田浦と佐野浦、佐野沖合の漁につき相論。	三/297	七/375
	3月	調音美(光明寺僧陳阿)と坂田屋清丸(宇野安兵衛)が大坂まで旅行し、道中詠んだ狂歌を『竹杖の日記』に著す。	三/430	七/542
1815年(文化12)	5月	『狂歌千くさの園』に、調音美(光明寺僧陳阿)の句が見える。	三/426	
	7月	河合村と木積村、入会山をめぐり相論。		七/341
1816年(文化13)	8月	岸和田藩、銀札改めを行い、増印のない銀札は不通用とする。		七/152
	閏8	田治米・今木・池尻・中井・吉井・東大路・西大路・箕土路・小松里等の幕府領15か村が岸和田藩預所となる。		「岸和田藩志」
	10月	岸和田藩、他領から領内へ商売に来る商人に対し、印札制度を設け不正商売を取り締まる。	三/286	
	12月	岸和田藩、印札を受けた他領商人に上納銀を賦課する。	三/287	
1817年(文化14)	6月	岸和田藩、岸和田港を修築する。	三/301	
		岸和田藩、岸和田浦と佐野浦に不正并売買直段改所を設置。	三/287	七/399
1818年(文政1)	12月	幕府、本田畑への甘蔗植え付けを禁じ、これを受けて岸和田藩が領内に触を出す。	三/260	
1819年(文政2)	4月	下野町墓地の徳本上人筆名号塔が建立される。	三/563	
	7月	『狂歌佛百人一首』に調音美(光明寺僧陳阿)が跋文を寄せる。同書に音美の他、琴也・安丸(多川政常)など岸和田の狂歌師の句が見える。	三/426	
	11月	岸和田藩、物価引下令を發布し、諸色改所を設置する。	三/288	七/400
1820年(文政3)	春	佐野の食野家が岸和田藩への借銀を拒否する。	三/130	七/154
	8月	岸和田藩、藩政改革実施のため、領内庄屋10数人を掛庄屋とする。	三/133	
	10月	岸和田藩、領民1人1日銀2厘を賦課する新税(人別二厘掛手業料)実施を触れる。財政改革のため新役所を設置。	三/135	
	この年	岸和田藩、家中の給米を半分とする半知実施。	三/137	
光撰寺(宮本町)建立。		三/564		
1824年(文政7)	4月	摂河泉1460か村が、油の直小売、菜種・綿実と油の価格適正化を求めて大坂町奉行所へ訴える。(文政の国訴)	三/323	
	この年	摩湯・三田・(山直)中・稲葉・積川・大沢村が清水家領となる。	三/99	
		土生滝村、檀尻を新調する。宮入の先後をめぐり阿間河滝村と争論。		「だんじり祭関係史料集」
1825年(文政8)	5月	塔原村と蕎原村が入会地をめぐって相論。	三/358	

1826年(文政9)	4月	遠江国に漂着した唐船を長崎へ回漕する途中、岸和田藩領9浦漁民が泉州沖から兵庫津まで護送する。	三/347	
1827年(文政10)	11月	岸和田城天守閣、落雷で焼失。	三/166	七/583
1828年(文政11)	6月	岸和田藩、家中を18組に分けて財政再建策を検討させる。	三/141	
	12月	幕府、前年焼失した岸和田城天守閣・多聞櫓等の再建を許可する。(実際は再建されず。)	三/167	七/589
1829年(文政12)	1月	岸和田藩、財政改革のため、大坂天満の商人大根屋小右衛門(石田敬起)を登用、大根屋改革はじまる。人別二厘掛手業料廃止。	三/144	
	7月	岸和田藩、倭約令発布。改革年限中(天保2年まで)は檀尻を出すことを禁じる。	三/470	
		勝尾明神社の帰属をめぐって下松村と上松村が相論。下松村領として和談。		七/517
8月	岸和田藩寺社奉行より、土生滝・阿間河滝村の檀尻宮入について和解案を示すも、両村は和解に応じず。	「奥家文書」		
1830年(天保1)	5月	厳蒼陳阿、光明寺住職を辞職する。	三/439	
1831年(天保2)	12月	岡部長寛が旗本岡部長貞の養子となる。		七/608
1832年(天保3)	6月	阿間河滝村より、土生村が諸井堰の水利を妨げているとして岸和田藩へ訴える。(11月示談成立)	三/239	
	8月	この年より、岸和田の町・浜・村が一緒に祭礼を行う。	三/468	
1833年(天保4)	11月	岡部長慎隠居し、長和〈ながより〉封を継ぐ。		七/614
	この年	小松里村の一部が山城淀藩領から幕府領となり、一村全て幕府領となる。	三/99	
1834年(天保5)	3月	岡部長慎、岡部氏家訓を撰す。	「岸和田藩志」	
1837年(天保8)	2月	岸和田藩、大塩平八郎の乱につき大坂へ出兵する。		七/632
1839年(天保10)	2月	岸和田藩、岡部氏入城200年を祝し、葛城山で鹿狩実施。	「岸和田藩志」	
	5月	岸和田藩医小関三英が江戸の岸和田藩邸で自害。		七/650
1840年(天保11)	9月	岸和田藩の軍制(天保備定)定める。	「岸和田藩志」	
1841年(天保12)	1月	紙屋町地車(先代)できる。	五/565	
1842年(天保13)	1月	厳蒼陳阿が『当麻曼茶羅搜玄疏採摘聴書』を著す。	三/441	
	12月	岸和田藩、家中取締りのための定書を発布。		七/204
1843年(天保14)	7月	岸和田藩、「郷中衣食住御定書」25か条発布。	「岸和田志」	
1844年(弘化1)	12月	岸和田藩が葛城山八大竜王について、定書17か条を定め、塔原村に下す。	三/362	七/522
1845年(弘化2)	この年	新在家村(岡山町)に文亀堂(市内最初の寺子屋)開業。	四/344	
1846年(弘化3)	10月	厳蒼陳阿が京の華頂御殿で当麻曼茶羅を講説し、尊超法親王から後曼茶羅院号を下される。	三/441	
	12月	岸和田藩、村方へ12か条条目発布。		七/215
1847年(弘化4)	2月	流木・極楽寺・畑村の百姓らが、村役人の村費支出が不明瞭と抗議して紛糾、岸和田村庄屋らの仲介により和解。		七/490

1847年(弘化4)	9月	岸和田藩、小野蘭山述『重訂本草綱目啓蒙』を刊行。	三/451	
1848年(嘉永2)	8月	岸和田藩、『重訂本草綱目啓蒙図譜』を刊行。	三/456	
1850年(嘉永3)	9月	岡部長和没。	三/493	七/713
	11月	岡部長発 <small>(ながゆき)</small> 封を継ぐ。	三/93	七/715
1851年(嘉永4)	3月	岸和田藩 幕府より日光御宮修復手伝を命じられる。		七/720
	9月	岸和田藩、上砂町(北町)に藩校講習館を創立。相馬九方を教官として招く。	四/346	
1852年(嘉永5)	8月	阿間河滝村と土生滝村が意賀美神社への雨礼踊奉納の先後等について相論。		七/537
1853年(嘉永6)	2月	吉田松陰、大和五條の儒者森田節斎と共に来岸、講習館にて相馬九方と対談する。	「松陰日記」	
	7月	阿間河滝村と土生滝村、諸井堰の水利につき相論。	三/241	七/457
1854年(安政1)	2月	山直郷中村百姓、庄屋不帰依を申し立て、庄屋退役する。		七/501
	9月	ロシア軍艦ディアナ号、岸和田沖を通過し、大阪湾に進入。岸和田藩、沿岸付近の防備を固める。	三/485	
	12月	荒井溝掘削をめぐる春木・吉井村と東大路・今木・小田村が相論。	三/223	
1855年(安政2)	2月	岡部長発没。旗本岡部長貞家の養子となっていた長寛 <small>(ながひろ)</small> が宗家に戻り封を継ぐ。	三/93	
	6月	本町が檀尻新調を藩へ願い出、許可される。	三/478	
	この年	摩湯・三田・(山直)中・稲葉・積川・大沢村が幕府領となる。 尾生村に寺子屋静寿堂開業。	三/99	四/344
1856年(安政3)	8月	大北浜と中之浜が檀尻を新調する。	三/476	
1858年(安政5)	4月	岸和田藩、改めて甘蔗の本田畑への植え付けを禁止する。	三/261	七/222
	11月	岡部長慎没。	「岸和田藩志」	
1862年(文久2)	8月	藤井村が古檀尻を購入する。	「藪家文書」	
1863年(文久3)	5月	岸和田藩、庄屋および帯刀御免の者らの鉄炮・剣術稽古を許し、非常時には村方百姓らを城下へ動員する触書発布。	「岸和田志」	
	8月	天誅組の乱に際し、岸和田藩、河内に出兵。	「岸和田藩志」	
1864年(元治1)	6月	岸和田藩、大坂に出兵し、今宮、阿倍野、住吉を警備する。	「岸和田藩志」	
		岸和田藩、領内に質素儉約令を触れる。	三/501	
	7月	岸和田藩、堺表警固にあたる。	「岸和田藩志」	
		岸和田藩、領内に「非常之節心得方」を触れ、浪人風の者が領内を通行した場合の対処方法を指示する。	三/502	
8月	春木浦漁民が外国船が捨てたビール瓶を拾い藩へ届け出る。	三/489		
1865年(慶応1)	3月	岸和田藩、領内の商人へ岸和田駅・信達駅の助成銀を賦課。	三/505	七/470

1865年(慶応1)	この年	箕土路・西大路・東大路村と大町村の一部が京都守護職領となる。	三/97	
1866年(慶応2)	3月	岸和田藩、講習館に増築して修武館を設け、練武の道場とする。	四/346	
	5月	岸和田藩、河内国分村(柏原市)百姓一揆鎮圧のため出兵。	三/491	七/504
		欄干橋詰に打ち壊しを呼びかける張り紙が張られる。	三/509	
8月	岸和田藩、時節柄につき、檀尻を出すことを禁じる。この年は太鼓台のみが出る。	三/504		
1867年(慶応3)	11月	北町の町家に神符が降る。	三/510	
		岸和田・貝塚で御蔭踊り流行する。岸和田藩、家中へ御蔭踊り等の見物を禁止する。	三/511	
	12月	岸和田藩、幕府の命により堺警固にあたる。	三/490	
		岸和田藩、領民へ御蔭踊り等を禁止する。	三/511	
1868年(明治1)	1月	鳥羽伏見の戦に敗れた幕府軍、岸和田を通過し、和歌山方面に落ちる。岸和田藩、新政府の命に応じ、藩兵を京都に派遣、次いで大阪市中取締りにあたる。	三/494	
	この頃	藩主後継問題と勤王・佐幕問題で藩内分裂(岸和田騒動)。	三/493	
	閏4月	岸和田藩、新政府へ7000両献金。	四/13	
	5月	相馬九方、義党派の非を新政府へ訴えるも、義党派からの訴えによって投獄される。	三/495	
	9月	鞠獄司の裁許により、岡部結城・相馬九方ら流罪(後、恩赦により国元で永禁錮)となる。義党派の降屋宗兵衛らは無罪となる。	三/495	
	10月	義党派の岸和田藩士が鉄砲師佐藤文吉を殺害。	「太政類典」	
	12月	岡部長寛隠居し、長職 <small>(ながもと)</small> 封を継ぐ。	四/16	
	この年	岸和田藩、銭札発行。	「和泉古幣図譜」	
1869年(明治2)	2月	岸和田藩、政府へ版籍奉還を願い出る。	四/17	五/167
		岸和田藩、田代環を公議人(政府設置の公議所〈議院〉の議員)とする。	四/24	
		岸和田藩、中采女・堀江蔵人を執政に、三浦右門を参与に任じる。	四/27	
	6月	版籍奉還。岡部長職、岸和田藩知事に任命される。	三/512	
	8月	岸和田藩、藩士家禄を現石の10分の1に削減する等の藩政改革実施。	三/513	
	10月	岸和田藩、職制を、執政・参政・公義人・公義所の4局に改める。	三/516	
	12月	岸和田藩、家中に7か条法度を触れる。	三/515	
1870年(明治3)	2月	岸和田藩、8歳から18歳の藩士子弟全員の藩校入校を義務付け、城内の旧勘定所跡に文学館を分設し、洋学科をおく。	四/346	八/476
	7月	降屋宗兵衛ら義党派藩士11名、鉄砲師殺害により終身禁錮または禁錮刑に処せられる。	「華族家記」	
	10月	岸和田藩、藩の職制及び士・卒族の家禄を改正。	四/35	五/55
	閏10月	岸和田藩、領内に中諭大意を布達。	四/37	五/57

1870年(明治3)	12月	岸和田藩、職制を、政庁・軍務・学館の3局に改める。	三/516	
1871年(明治4)	5月	岸和田藩、領内に31か条布告を触れる。		五/64
	6月	熊沢友雄らが藩政改革についての意見書を藩へ提出。	四/52	
	7月	廃藩置県。岸和田藩を廃し、岸和田県となる。岡部長職、藩知事免ぜらる。	四/44	
		修武館を岸和田学館と改称。文学館廃止。	四/347	
	8月	岡部長職、東京へ移住。	四/45	
		岸和田城二の丸の櫓、二重門を取り壊し、魚屋町の外堀を埋める。	三/520	
		この年より、岸和田町・浜・村の祭礼と野村・沼の祭礼が同日(8月13日)になる。	四/355	
	9月	岸和田県、管内の里正(庄屋)を廃止し、改めて各区3名ずつの里正(町場は市正)を選任する。	四/54	
11月	岸和田県が堺県に併合される。堺県は和泉・河内両国一円を管轄する。	四/61		
12月	堺県、岸和田村に捕亡出張所を設置。	四/83		
1872年(明治5)	1月	岸和田郵便局開局。	四/418	
	2月	堺県、和泉国内を25区に区画する。岸和田学館を和泉国第15区岸和田区学校に改める。	四/347	
		堺県、岸和田県庁を廃し、南・日根両郡の平常事件処理のための岸和田出張所とする。	四/58	
	4月	堺県、太政官布告により、庄屋・年寄を廃し、戸長・副戸長をおく。	四/62	
	5月	堺県、各区に区長・副区長を任命。	四/63	
		春木郷学校創立。	四/付図	
	6月	岸和田出張所廃止。	四/58	
		内畑郷学校・河合郷学校創立。	四/付図	
	7月	田治米郷学校創立。	四/付図	
8月	堺県、和泉国内各村の祭礼を、大鳥神社の祭礼日(8月13日)に統一することを触れる。	四/355		
9月	山岡尹方らが、旧藩練兵場跡で煉瓦製造を始める。	四/155		
1873年(明治6)	5月	箕土路村に泉州第20番小学設置。	四/349	
		岸和田区学校を改め、泉州第21番小学(岸和田砂町)及び泉州第22番小学(岸和田旧城内)とする。	四/349	
		稲葉村に泉州第57番小学設置。	四/350	
		内畑郷学校を泉州第41番小学とする。	四/付図	
		河合郷学校を分校し、神須屋村に泉州第37番小学、河合村に泉州第38番小学設置。	四/付図	
		田治米郷学校を泉州第40番小学とする。	四/付図	

1873年(明治6)	8月	春木郷学校を泉州第53番小学校とする。	四/350	
		岸和田町・浜からの祭礼の許可届けに対し、堺県、祭礼にだんじりを出すことを許可せず。	四/356	
		土生滝村に泉州第61番小学、尾生村に泉州第62番小学、大沢村に泉州第79番小学設置。	四/付図	
1874年(明治7)	1月	堺県、管内の区画を改め、和泉国内は3大区・14小区に区画する大小区制を実施。	四/66	
	2月	堺県、本町と箕土路村に屯所をおく。(本町の屯所は後の岸和田警察署)	四/83	
	4月	三田村に泉州第100番小学設置。	四/付図	
	5月	土生村に泉州第102番小学設置。	四/付図	
1875年(明治8)	4月	講習館が河泉学校岸和田学校となる。(8月 堺県師範学校岸和田学校に改める)	四/347	
	5月	第20番小学を箕土路小学及び東大路小学に、第21小学を岸和田砂町小学に、第22番小学を岸和田本町小学及び下松小学に、第38番小学を公立河合小学に、第40番小学を新在家小学に、第41番小学を内畑小学に、第53番小学を春木小学に、第57番小学を稲葉小学に、第61番小学を公立土生滝小学に、第62番小学を尾生小学に、第79番小学を大沢小学に、第100番小学を三田小学に、第101番小学を小松里小学に、第102番小学を公立土生小学とそれぞれ改称。	四/付図	
	10月	第37番小学を神須屋小学と改称。	四/付図	
1876年(明治9)	1月	堺県、岸城神社・沼の天神宮の祭礼日を9月15日に変更する。	四/356	
	6月	岸和田本町小学を岸和田南小学、岸和田砂町小学を岸和田北小学と改称。	四/付図	
1877年(明治10)	1月	堺県、漁業者に免許鑑札を交付し、漁労を許可するとともに、1人につき1か月2銭の県税を課す。	四/137	
	2月	岸和田警察出張所が岸和田警察署に改称。	四/85	
	3月	山岡伊方・熊沢友雄ら、本町の元引替所において初めて民権家の演説会を開催する。	四/175	
	7月	山岡伊方ら、岸和田浜町に時習社(士族を中心とする民権結社)設立。	四/176	
	10月	箕土路・東大路・小松里小学を合併し、高木小学(東大路村)とする。	四/付図	
	この年	土生新田の坂口平三郎が自宅近くに植物試験場「東臯園(とうこうえん)」を設置。	四/130	
1878年(明治11)	1月	塔原・相川村より堺県へ学校設立を願い出る。		八/487
	5月	アメリカ留学中の岡部長職が、新島襄に岸和田でのキリスト教伝道を依頼。		「新島襄と山岡家の人々」
	7月	新島襄が岸和田でキリスト教伝道を始める。	四/76	
	8月	神須屋小学を矢代寸小学と改称。	四/付図	
		同志社より山崎為徳が派遣されキリスト教伝道を行う。同志社学生であった徳富猪一郎(蘇峰)・健次郎(蘆花)らも修養会と伝道支援に岸和田に滞在。	四/78	
	12月	大阪川口教会のクザン神父、岸和田砂町(北町の一部)の士族屋敷をカトリック伝道所とする。	四/80	
		岸和田本町に第五十一国立銀行開業。	四/170	
	堺県師範学校岸和田分局閉校。	四/347		

1879年(明治12)	1月	岸和田浜町に岸和田女紅場開設。	「熊沢友雄日記」	
	3月	相馬九方没。		八/503
	10月	矢代寸小学より分離し、極楽寺小学を設ける。	四/付図	
1880年(明治13)	2月	山岡尹方らが浜町に私塾時習社英和学校を開校。(教員須藤与惣・下村孝太郎。キリスト教への迫害が強まり8月閉校)	四/79	
		塔原村、堺県へ小学校設立を嘆願。		八/487
	3月	岸和田浜町に時習舎英学校設立。8月反対派の迫害により伝道活動停止。10月山岡尹方ら北町で集会再会		
	4月	堺県、大小区制を廃し、管内に1区(堺)・9郡役所をおく。岸和田旧師範学校を南・日根郡役所とする。初代郡長渥美広道。	四/100	
		堺県、各郡区中の町村を聯合し、各聯合に戸長役場を設置。南・日根郡役所部内の第一聯合戸長役場は池尻村、第二聯合戸長役場は岸和田村に設置。	四/103	
	5月	堺県県会議員選挙実施。熊沢友雄(岸和田堺町)・井阪光暉(大町村)・南与五郎(摩湯村)当選。	四/112	
	6月	堺県会開設。熊沢友雄が副議長に選ばれる。	四/113	
		公立河合小学から相川小学分立。	四/付図	
10月	岸城町に南・日根郡役所開庁。	「岸和田志」		
1881年(明治14)	1月	寺田甚与茂、第五十一国立銀行二代目頭取に就任。	四/330	
	2月	堺県を廃し、大阪府に合併。	四/100	
		濱田耕作、南河内郡古市村(現、羽曳野市古市)に生まれる。	「濱田耕作著作集」	
	3月	大阪府、旧堺県管下の聯合町村制を改め、各町村に戸長をおく毎町村戸長制とする。(尾生村と三ヶ山村、今木村と東大路村、加守村と別所村、上松村と作才村、白原村と河合村と神於村はそれぞれ聯合村とする。)	四/105	
		大阪府県会議員選挙実施。熊沢友雄(岸和田堺町)・井阪光暉(大町村)当選。	四/115	
	7月	白川資義、南・日根郡長となる。	四/100	
	10月	岸和田南小学を公立岸和田小学校に、岸和田北小学を公立岸和田小学校分校に改称。	四/付図	
		坂口平三郎が東臯園で玉葱栽培を始める。	四/131	
12月	下松小学を常盤小学校に改称。	四/付図		
12月	大阪木綿太物商仲間が大阪府知事に木綿の尺幅改良を請願。	四/150	八/331	
1882年(明治15)	2月	大阪木綿太物商仲間と和泉国木綿荷主が、木綿尺幅改正条約書を締結し、和泉木綿の規格を統一する。	四/151	八/331
	7月	熊沢友雄、南・日根郡長となる。	四/100	
	8月	大阪府県会議員改選。井阪光暉当選。	四/117	
	9月	柁原坦、岸城神社の祠官になる。		八/522
	11月	和歌山県内での打瀬網漁が禁止された旨、大阪府より摂津・和泉沿海漁村に通達。	四/141	
1883年(明治16)	3月	東臯園(土生新田)にて、南・日根郡最初の農談会を開く。	四/131	

1883年(明治16)	8月	牛滝川水利について稲葉村と内畑村が定約書を交わす。		五/278
	10月	和歌山県内での打瀬網漁が解禁される。	四/142	
	11月	公立土生滝小学、修齊小学校に改称。	四/付図	
1885年(明治18)	1月	大阪川口教会のワスロン神父、筋海町に聖堂を建設し、岸和田天主教会設立。	四/80	
	4月	内畑小学を内畑初等小学校と改称し、大沢小学を内畑初等小学校の分校とする。	四/付図	
	9月	本町に岸和田基督教会設立。	四/79	
1886(明治19)	1月	公立相川小学校を豊明小学校に、公立河合学校を河合簡易科教場に改称。	四/付図	
	2月	大阪府会議員選挙実施。佐々木政又 <small>(せいがい)</small> (岸和田村)当選。	四/117	
	3月	旧岸和田城内に岸和田土族授産場が創業し、綿ネルを製織する。	四/155	
	4月	福井楠喜(豫章)、大阪淡路町に私塾豫章館を開く。		八/947
	8月	押田良助、南・日根郡長となる。 松浪藤七、岸和田本町で板ガラス販売・ガラス器具製造を始める(後の松浪ガラス製造所)。	四/100 四/157	
1887年(明治20)	1月	内畑初等小学校を内畑尋常小学校と改称し、内畑初等小学校大沢分校を大沢簡易小学校とする。	四/付図	
	4月	春木小学、春木簡易小学校と改称。	四/付図	
	6月	第一煉瓦製造会社(後の岸和田煉瓦株式会社)創立。社長山岡尹方 <small>(ただかた)</small> 。	四/156	
	この頃	岸田喜代門らがチーゼル栽培を始める。		「岸和田志」
1888年(明治21)	1月	和泉国内の地主たちが大蔵大臣に地価引き下げを求める請願書提出。以後、翌年にかけて地価修正運動高まる。	四/200	
	3月	河合簡易科教場を河合簡易小学校に、極楽寺簡易教場を極楽寺簡易小学校に改称。	四/付図	
	4月	土生尋常小学校を土生簡易小学校に、春木簡易小学校を春木尋常小学校に、常盤尋常小学校を常盤簡易小学校に、尾生尋常小学校を尾生簡易小学校に、修齊尋常小学校を修齊簡易小学校に改称する。	四/付図	
	7月	木綿仲買人等、岸和田堺町に共同会社を設立。社長覚野楠太郎。	四/162	
	この年	町村立岸和田尋常小学校を町村立岸和田尋常簡易小学校に改称。	四/付図	
1889年(明治22)	2月	大阪府会議員選挙実施。井阪光暉当選。	四/117	
	4月	市制・町村制施行。岸和田市域は、岸和田町・岸和田浜町・岸和田村・沼野村・土生郷村・有真香村・東葛城村・北掃守村・南掃守村・八木村・山直上村・山直下村・山滝村の2町11村となる。	四/209	
		高木小学を八木尋常簡易小学校に、豊明簡易科教場を豊明簡易小学校に改称。	四/付図	
	7月	藤浪慶次郎、山直下村長就任。		「郷土誌山直」
	この年	木岡慎平、土生郷村長就任。		「土生郷村誌」
1890年(明治23)	7月	第一回衆議院議員総選挙。佐々木政又当選。	四/196	

1892年(明治25)	1月	土生簡易小学校を土生尋常小学校に改称。	四/付図	
	11月	寺田甚与茂らが紡績会社(後の岸和田紡績)設立を大阪府へ申請、許可を受ける。		八/338
	12月	佐々木佐次平、山直下村長就任。		「郷土誌山直」
1893年(明治26)	3月	極楽寺簡易小学校を極楽寺尋常小学校に改称。	四/付図	
	4月	内畑尋常小学校に高等科を併置し、内畑尋常高等小学校とする。河合簡易小学校を河合尋常小学校とする。八木尋常簡易小学校の簡易科を廃止し、八木尋常小学校となる。	四/付図	
	6月	金納源十郎ら岸和田銀行設立。	四/263	
		豊明簡易小学校を豊明尋常小学校に、稲葉小学校を稲葉尋常小学校と改称	四/付図	
	10月	紀泉鉄道株式会社と、紀阪鉄道株式会社が合併し、紀摂鉄道株式会社となる。(後の南海鉄道)	四/275	八/458
	11月	第一煉瓦製造会社が岸和田煉瓦株式会社と改称する。	四/247	
	12月	新在家簡易小学校を新在家尋常小学校と改称。	四/付図	
1894年(明治27)	1月	岸和田紡績株式会社開業。社長寺田甚与茂。	四/256	
		春木尋常小学校を北掃守尋常小学校に、尾生簡易小学校を尾生尋常小学校に、修斉簡易小学校を修斉尋常小学校に改称。	四/付図	
	2月	岸和田に消防組結成。		「岸和田消防のあゆみ」
	11月	稲葉尋常小学校を稲葉尋常高等小学校に、常盤簡易小学校を常盤尋常小学校と改称。	四/付図	
	12月	宇野四一郎ら、岸和田貯蓄銀行設立。	四/265	
1895年(明治28)	2月	南掃守村、村長有給条例を廃止し、名誉職村長とする。		五/84
	8月	紀摂鉄道が南陽鉄道、更に南海鉄道に改称し、南海鉄道株式会社設立。	四/277	
	12月	佐々木佐市、山直下村長就任。		「郷土誌山直」
	この年	大沢簡易小学校、大沢尋常小学校と改称。	四/付図	
1896年(明治29)	1月	和田市三郎、山直下村長就任。		「郷土誌山直」
	4月	大阪府、和泉国内の4郡を整理し、泉北郡と泉南郡とする。南・日根郡役所は泉南郡役所に改称。	四/212	
	8月	泉北・泉南郡各町村長、岸和田に尋常中学校を設置することを大阪府に嘆願。		八/491
1897年(明治30)	1月	思成会結成(地方公共に尽瘁、貢献するため、岸和田町の青壮年実業家らが組織)。初代会長宮内可一。	四/214	
	3月	佐々木佐市、山直下村長就任。		「郷土誌山直」
	4月	大阪府第六尋常中学校(現、岸和田高等学校)創立。	四/350	
	9月	寺田甚与茂・元吉ら、和泉貯金銀行設立。	四/259	
	10月	南海鉄道、難波～佐野間開通。岸和田駅開業。	四/279	
1898年(明治31)	1月	第五十一国立銀行が私立銀行となり株式会社五十一銀行と改称。	四/263	

1898年(明治31)	2月	福井楠喜(豫章)、私塾豫章館を大阪市内から岸和田へ移す。	「岸和田志」	
	10月	南海鉄道、阪堺鉄道と合併。尾崎～和歌山北口間開通し、難波～和歌山間が全線開通する。	四/280	
	11月	陸軍大演習が海岸寺山(貝塚市半田)で行われ、明治天皇、土生郷村・岸和田中学校に行幸。	「大阪府史蹟名勝天然記念物」	
1899年(明治32)	4月	大阪府第六尋常中学校が大阪府第六中学校に改称。	四/付図	
	6月	チャニング・ウィリアムスが本町に日本聖公会岸和田教会を設立。	四/81	
	この年	辻茂治が本町でオルガン製造を始める(辻オルガン)。	四/82	
1901年(明治34)	4月	郡立大阪府泉南高等女学校(現、和泉高等学校)創立。	四/353	
		大阪府第六中学校が大阪府岸和田中学校に改称。(同年6月大阪府立岸和田中学校に改称)	四/付図	
1902年(明治35)	1月	第五十一銀行、岸和田銀行を吸収合併する。	四/263	
	4月	町村立岸和田尋常高等小学校を、岸和田高等小学校・岸和田尋常小学校・岸和田村尋常小学校・岸和田沼野村尋常小学校・岸和田浜町尋常小学校に分割する。	四/付図	
	10月	土生神社に、土生村内の八幡・山下八幡社を合祀。	四/361	
	11月	岸和田沼野村尋常小学校を岸和田朝陽尋常小学校と改称。	四/付図	
	この年	三田村の堀川孫三衛門が初めて乳牛の飼育を始めたという。	五/699	
1902年(明治36)	1月	岸和田紡績株式会社が堺の泉州紡績を買収、堺分工場とする。	四/261	八/343
	6月	岸和田村尋常小学校校舎完成(昭和27年から岸城幼稚園舎、後、市役所仮庁舎、公民館、科学教育センターとしても使われる。昭和49年4月、解体。昭和57年中央公園内に移築。平成9年国登録文化財)	四/496	
	11月	藤浪慶次郎、山直下村長就任。	「郷土誌山直」	
	この年	春木漁業組合・磯上漁業組合設立。 津田栄、堺町と岸城町(後、堺町に統合)に津田文庫設立。(岸和田で最初の図書館)	四/596	四/490
1904年(明治37)	3月	松浪定吉、顕微鏡用デッキガラスの製造を始める。	四/323	
		戦時岸和田町婦人会設立。		八/429
	7月	山本惣太郎、山直下村長就任。	「郷土誌山直」	
1905年(明治38)	4月	沼野村に和泉煉瓦設立。社長中辰之助。	四/252	
	5月	藤浪慶次郎、山直下村長就任。	「郷土誌山直」	
1906年(明治39)	5月	佐々木佐市、山直下村長就任。	「郷土誌山直」	
	12月	大阪窯業株式会社と和泉煉瓦(沼野村)、貝塚煉瓦(貝塚町)合併。旧和泉煉瓦は大阪窯業岸和田工場とする。	四/252	
		岸和田郵便局、電話通信事務を始める。	四/418	
1907年(明治40)	1月	寺田元吉ら泉州織物株式会社創立。	四/414	

1907年(明治40)	4月	川崎徳太郎、沼野村に川崎綿布合名会社(後、川崎綿布株式会社)創立。	四/414	
	5月	佐々木政又没。	四/214	
	6月	岸和田高等小学校(現、中央小学校)内に、思成会附属私立岸和田実業補習学校(後の商業学校、産業高等学校)設立。	四/485	八/496
	10月	寺田利吉、寺田銀行設立。	四/259	八/384
		沼の菅原神社に、野・別所・藤井村の諸社を合祀。	四/361	
	11月	積川神社に、村内の八阪・菅原・白鬚社を合祀。	四/360	
		矢代寸神社に、流木・神須屋・真上新田の諸社を合祀。	四/361	
意賀美神社に、土生滝村内の古元・一瀬社を合祀。		四/361		
1908年(明治41)	4月	春木の弥栄神社に、磯上・春木村の諸社を合祀。	四/361	
	4月	内畑尋常高等小学校を山滝尋常高等小学校と改称し、大沢尋常小学校を同校の分教場とする。	四/付図	
	7月	沼の菅原神社に、上松村の菅原社、加守村の菅原社を合祀。	四/360	
1909年(明治42)	11月	夜疑神社に、荒木・下池田・箕土路・西大路・大町・小松里・池尻村の諸社を合祀。	四/360	
	2月	矢代寸神社に、神須屋の天神社を合祀。	四/361	
	4月	岸和田高等小学校を廃止し、岸和田尋常小学校を岸和田尋常高等小学校に、岸和田朝陽尋常小学校を朝陽尋常高等小学校に、岸和田村尋常小学校を岸和田村尋常高等小学校に、岸和田浜町尋常小学校を岸和田浜町尋常高等小学校に改称。	四/付図	
	6月	寺田元吉ら、和泉水力電気株式会社設立。	四/295	
		兵主神社に、下松村の菅原・八幡・巖島社を合祀。	四/360	
	7月	沼の菅原神社に、下松村の勝尾社を合祀。	四/360	
10月	夜疑神社に、吉井村の菅原社を合祀。	四/361		
1910年(明治43)	2月	岸和田紡績野村工場設立。		「岸紡50年史」
	3月	中村幸次郎・川井又六ら、中村鉛筆製造株式会社設立。	四/326	
		橋本勝太郎、山直下村長就任。		「郷土誌山直」
	11月	帝国在郷軍人会岸和田町分会結成。		「岸和田志」
12月	岸和田築港浚渫工事に伴う公金横領事件により、岸和田町長安藤祥始・岸和田浜町長高井泰三・岸和田村長浦田甚之右衛門・沼野村長川崎長左衛門辞職。	四/216		
1911年(明治44)	2月	和泉水力電気株式会社、岸和田町および付近町村に送電始める。	四/296	
		岸和田町・岸和田浜町・岸和田村で4町村合併決議案可決。沼野村は決議せず。可決した2町1村が大阪府知事へ4町村の合併上申書提出。	四/217	五/45
	3月	山直神社に、村内の市杵島社を合祀。	四/360	
		沼の菅原神社に尾生村の牛神社を合祀。	四/360	

1911年(明治44)	5月	郡立大阪府泉南高等女学校、旧城内から野田町へ移転。	四/付図	
	6月	大沢村の菅原神社に、村内の八阪・巖島社を合祀し、大沢神社と改称。	四/360	
	7月	岡田伊平ら、泉州瓦斯株式会社設立。	四/297	
	11月	南海鉄道、難波～和歌山間全線電化。	四/283	
4町村合併に反対する沼野村議員全員が辞職。		四/221		
1912年(大正1)	1月	岸和田町・岸和田浜町・岸和田村・沼野村が合併し、岸和田町となる。	四/222	
	1月	岸和田町尋常高等小学校及び岸和田浜町尋常高等小学校の付属幼稚園を合併し、岸和田幼稚園創立。		八/501
	3月	初代岸和田町長に村田宜寛就任。	四/222	
	4月	岸和田村尋常高等小学校を岸和田城内尋常小学校に、岸和田浜町尋常高等小学校を岸和田浜尋常小学校に、朝陽尋常高等小学校を岸和田朝陽尋常小学校に改め、各校の高等科は岸和田高等小学校に統合する。	四/付図	
		寺田元之助、関西製綱株式会社(後の帝国産業株式会社)設立。	四/334	
	5月	宇野亮一ら、和泉紡績株式会社設立。	四/265	八/367
	8月	南海鉄道、泉北・泉南10か村に電灯電力供給を開始する。	四/295	
10月	岸和田紡績株式会社春木工場設立。		「岸紡50年史」	
1913年(大正2)	2月	寺田利吉(二代)、寺田紡績工廠株式会社設立。	四/335	
	4月	河合村の菅原神社が東葛城神社と改称、河合・相川・塔原・神於村の諸社を合祀。	四/362	
		和田秀之助、山直下村長就任。		「郷土誌山直」
		岸和田区裁判所、堺区裁判所岸和田出張所と改称。		「岸和田志」
10月	岸和田町の商工業者らが岸和田商工会を結成。	四/215		
1914年(大正3)	4月	常盤、尾生尋常小学校を合併し、南掃守尋常小学校とする。従来の尾生尋常小学校は南掃守尋常小学校尾生分教場に、常盤尋常小学校加守分教場は南掃守尋常小学校加守分教場となる。	四/付図	
		南海蛸地藏駅開業。(現在地より約150メートル南、大正14年4月に現在地に移転)		「南海電鉄100年史」
		積川神社本殿が特別保護建造物(現、重要文化財)に指定される。	五/375	
	7月	岸和田紡績春木分工場、火災で全焼。	四/306	
10月	南海春木駅開業。		「南海電鉄100年史」	
1915年(大正4)	2月	泉南郡西之内組合設立、耕地整理に着手。(大正13年5月完了。)	四/427	
	4月	郡立大阪府泉南高等女学校を大阪府立泉南高等女学校と改称。	四/付図	
	8月	岸城神社に、岸和田浜町の蛭子・琴平社を合祀。	四/361	
	10月	岸和田尋常高等小学校内に万歳館設立。(岸和田最初の小学校図書館)	四/490	

1915年(大正4)	10月	下野町郵便局開局。	四/418	
	11月	寺田元之助ら、東洋麻絲紡織株式会社設立。	四/334	
		中村神社に、山直中村内の稲荷・神明・春日・日吉社を合祀。	四/360	
	12月	楠本神社に、包近村内の八幡社を合祀。	四/360	
1916年(大正5)	1月	藤本治、山直下村長就任。	「郷土誌山直」	
	6月	山岡春ら、城内尋常小学校雨天運動場建設を求める運動を始める。	「岸和田地域婦人運動と山岡春」	
1917年(大正6)	4月	南掃守尋常小学校尾生分教場を、南掃守上尋常小学校とする。	四/付図	
	3月	岸和田煉瓦株式会社、磯上分工場操業始める。	四/316	
	この年	観世流能楽師杉江櫻園、岡部長職から岸和田城能舞台の一部を譲り受け、岸城町に杉江能楽堂を建立。	四/494	
1918年(大正7)	2月	和泉水力電気株式会社が南海鉄道株式会社と合併。	四/296	
	5月	内畑郵便局開局。	四/418	
	8月	米騒動起こる。岸和田では、約5千人の群衆が本町・南町・北町の米商や寺田甚与茂ら富豪宅を襲う。	四/341	八/437
	10月	岸和田母の会結成。	四/476	
1919年(大正8)	7月	岸和田煉瓦株式会社、岸和田煉瓦綿業株式会社と改称。	四/319	
	8月	岸和田紡績野村分工場の男性労働者19人が賃上げを要求し、解雇される。	四/445	
	9月	大北町に仮設の欄干橋公設市場設置。	四/420	
		佐藤満寿、岸城町に鳩巣園(私立幼稚園)設立。	「岸和田の女たち」	
	11月	大阪中之島公会堂で、婦人会関西聯合大会が開かれ、山岡春(岸城町)が発起人会座長を務める。	四/475	
この年	堺区裁判所岸和田出張所、岸和田町の申請により、岸和田区裁判所と改称。	「岸和田志」		
1920年(大正9)	2月	井阪光暉没。	四/404	
	3月	川端政繁、山直下村長就任。	「郷土誌山直」	
		木岡慎平土生郷村長没。	「土生郷村誌」	
	4月	北掃守尋常小学校に高等科併置し、北掃守尋常高等小学校とする。山直尋常小学校を改め、山直尋常高等小学校とする。	四/付図	
	5月	第14回衆議院議員総選挙。大町の井阪豊光(光暉の子、後の岸和田市長)当選。	四/404	
	10月	三田村の菅原神社に、村内の八幡社を合祀。	四/360	
	11月	思成会附属私立岸和田実業補習学校、岸和田尋常高等小学校附設実業補習学校となる。	四/485	
	12月	寺田甚与茂、寺田合名会社設立。	四/338	
1921年(大正10)	2月	岸和田市制促進演説会が開かれる。この頃より市制実施運動盛んとなる。	四/229	

1921年(大正10)	2月	北町・下野町・上町・宮本町の青年団が岸和田町(後、岸和田市)青年団聯合会結成。	「岸和田志」	
	3月	岸和田町、市制調査委員会設置。委員長浜口亀太郎。	四/229	
	4月	八木尋常小学校を八木尋常高等小学校に、土生郷尋常小学校を土生郷尋常高等小学校と改称。	四/付図	
	5月	岸和田町会、市制実施意見書上申を議決。市制調査委員会を解散し、市制実行委員会を組織する。委員長島田良蔵。	四/231	
		岸和田母の会、泉南郡婦人修養会と合併し、泉南婦徳会となる。	四/476	
	6月	岸和田町、「市制施行に関する意見上申書」を泉南郡長に提出。	四/234	
	7月	岸和田紡績本社の女工150人が、一時金支給に漏れたことを不満として無断欠勤。	四/445	
12月	岸和田貯蓄銀行が普通銀行に転換し、岸和田銀行と改称。	四/423		
	大阪府知事、岸和田市制実施の意見上申書を内務大臣に進達。	四/237		
1922年(大正11)	1月	和泉貯金銀行が普通銀行に転換し、和泉銀行と改称。	四/423	
	5月	岸和田港、内務省の指定港湾になる。	四/418	
	7月	岸和田紡績春木分工場の朝鮮人女性労働者が、民族差別待遇に反対しストライキを行う。	四/445	
	8月	岸和田尋常高等小学校で市制実施のための町民大会開催。	四/241	
		岸和田市制促進会結成。	四/243	
		岸和田紡績春木分工場の日本人労働者が、待遇改善を要求し、ストライキを行う。	四/445	
	10月	寺田甚吉、南海岸和田駅と内畑を結ぶ牛滝電気鉄道敷設免許を鉄道大臣に申請。(大正12年8月免許。実現せず、昭和2年12月失効。)	四/441	
		内務省告示第288号で大正11年11月1日より岸和田町の町域をもって市制を施行することを告示する。	四/245	
		岸和田町会解散。	四/370	
	11月	山直郵便局開局。	四/418	
岸和田町、町制を廃して岸和田市となる。人口30,673人、世帯数6,816戸。児玉政介市長職務管掌。		四/366		
この年	北町に和泉貯蓄銀行創立。	四/424		
1923年(大正12)	1月	第1回岸和田市会議員選挙実施。岸和田市最初の市会開く。初代議長山田宗三郎就任。	四/371	
		泉南婦徳会から分かれ、岸和田婦人会発足。会長山岡春。	四/476	八/826
	2月	市制実施により、岸和田浜町尋常小学校を「岸和田市浜尋常小学校に、岸和田村尋常小学校を岸和田市城内小学校に、沼野村尋常小学校を岸和田市朝陽尋常小学校に、岸和田尋常小学校を岸和田市尋常高等小学校(後の中央小学校)に改称。	四/480	
	3月	岸和田尋常高等小学校附属実業補習学校、岸和田市立商業専修学校に改称。	四/485	
		葛城山ブナ林、国天然記念物に指定される。	四/598	
4月	旧城内三の丸(南海蛸地蔵駅南側)にて市制記念博覧会開催。	四/375		

1923年(大正12)	4月	舟木二三二初代市長就任。	四/373	八/534
	5月	市制祝賀会開催。岡部長職・長景ら来会。	四/374	
	6月	寺田紡績と岸和田紡績の労働者が岸和田合同労働組合結成。	四/449	
	8月	東洋麻絲紡績の労働者が待遇改善を求めストライキを行う。	四/451	
	9月	本町の旧町役場跡に新岸和田市庁舎完成。	四/369	
	11月	泉州織物、1割賃上げを発表。東洋麻絲紡績の労働者が賃上げを求めストライキを行う。	四/451	八/913
		寺田紡績・和泉紡績・岸和田紡績でストライキ(泉南三紡績会社大争議)。	四/452	八/881
	12月	本町郵便局開局。	四/418	
この年	堺町に岸和田貯蓄銀行創立。	四/424		
1924年(大正13)	1月	岸和田市歌制定。	四/376	
	2月	岸和田市尋常高等小学校、中央尋常高等小学校と改称。	四/481	
	4月	東光高等小学校創立。	四/480	
		南掃守尋常小学校に高等科を併置し、南掃守尋常高等小学校とする。	四/付図	
		兵主神社本殿が特別保護建造物(現、重要文化財)に指定される。	五/375	
		市役所内に岸和田市職業紹介所を開設。(昭和2年4月、岸城町に移転)	「岸和田志」	
	5月	岸和田市章を定める。	四/376	
	9月	岸和田市公会堂が完成。	四/369	
	10月	岸和田市南町組合設立、耕地整理に着手。(昭和2年5月完了。)	四/425	
12月	宮本町に岸和田駅前公設市場を開設。	「岸和田志」		
1925年(大正14)	2月	岸和田市朝陽組合設立、耕地整理に着手。(昭和27年8月完了。)	四/427	
	4月	蛸地蔵駅、現在地へ移転。	「大阪朝日新聞」	
		東光高等小学校に尋常科を併置し、東光尋常高等小学校とする。	四/付図	
	5月	財団法人寺田万寿病院創立。	「岸和田志」	
	6月	並松町に岸和田市立託児所を開設。(昭和15年岸和田市立北保育所)	四/615	
	12月	岡部長職没。	「岸和田藩志」	
1926年(昭和1)	3月	土屋弘(鳳洲)没。	「岸和田志」	
	4月	東光尋常高等小学校に岸和田市立実践女学校を併置。	四/486	
		岸和田市朝陽第二組合設立、耕地整理に着手。(昭和3年8月完了。)	四/427	

1926年(昭和1)	4月	帝国在郷軍人会岸和田市聯合分会結成。	「岸和田志」	
	5月	岸和田婦人会、女子夜学校を始める。(昭和13年度まで)	四/478	八/828
	7月	各小学校に青年訓練所を設置。	四/489	
		郡長・郡役所廃止。	四/369	
	8月	大北町に市設簡易食堂を開設。(昭和17年閉鎖、20年疎開道路工事により撤去)	四/614	
		下野町、岸城町に公設市場開設。	「岸和田志」	
南上町、野田町、藤井町に市営住宅を建設。		「岸和田志」		
1927年(昭和2)	1月	第2回市議会議員選挙。(関西最初の普通選挙。)	四/377	
		川井源五郎市会議長就任。	「市制60年誌」	
	3月	春木郵便局開局。	四/418	
		アメリカの子供たちから、日米親善のため中央小学校に「青い目の人形」5体贈られる。	四/499	
	5月	舟木二三二市長再選。	四/402	
	7月	岸和田市東光組合設立、耕地整理に着手。	四/427	
	8月	南海興業株式会社、西之内町に春木競馬場建設。	五/43	
		久米田池郷の村々と田治米村が牛滝川からの引水をめぐって争う。		八/920
11月	岸和田市、方面事業を開始し、方面委員(民生委員の前身)を選任。	五/47		
1928年(昭和3)	1月	岸和田市、都市計画法の規定による市となる。	四/399	
	3月	泉南郡役所跡(現、市役所東北隅)に市立図書館開館。	四/491	
	4月	北掃守村、町制実施し、春木町となる。	四/付図	
		岡部長景、岸和田市へ岸和田城跡・市公会堂敷地を寄付。	四/392	
		大阪府立泉南高等女学校が大阪府立岸和田高等女学校と改称。	四/付図	
		北掃守尋常高等小学校を春木尋常高等小学校と改称。	四/付図	
	6月	久米田池郷の村々と田治米村が牛滝川からの引水をめぐって争う。		八/921
	7月	南海鉄道、牛滝線を主とした和泉自動車株式会社を買収し、南海バスを運行。	四/417	
11月	泉南畜産組合、春木競馬場で最初の競馬開催。	五/43		
1929年(昭和4)	9月	田辺納、下野町の自宅に無料産児調節相談所を開設。	四/478	
	11月	堺町に高島屋岸和田出張店開店。	四/420	
	12月	泉南郡春木町組合設立、耕地整理に着手。	四/427	

1929年(昭和4)	この年	春木町婦人会により、西福寺境内に託児所開設。(昭和10年町立春木幼稚園)	四/615	
		三田の和田武夫らが三田南農事実行組合結成。(昭和7年から高温殺菌処理した酪農製品販売。)	五/700	
1930年(昭和5)	4月	岸和田市立実践女学校を廃止し、岸和田市立高等実践女学校創立。	四/486	
		舟木二三二市長辞任。	四/403	
		岸和田都市計画区域決定。	四/400	
	5月	井阪豊光市長就任。	四/404	
		土生半蔵市会議長就任。	「市制60年誌」	
		岸和田駅前昭和大通り開通。	「大阪朝日新聞」	
	6月	阪和電鉄天王寺・東和歌山間開通(現、JR阪和線)。久米田駅・土生郷駅(現、東岸和田駅)開業。	四/417	
	8月	岸和田城本丸・二の丸跡などを千亀利公園として整備。(設計者 大屋霊城)	四/392	
	9月	磯上に春木尋常高等小学校分教場(後の大芝小学校)を創立。	四/付図	
1931年(昭和6)	3月	岸和田紡績、三重県津市の新工場操業。	四/414	
	4月	有真香郵便局開局。	四/418	
	6月	消防組を改組し、岸和田市消防組とする。	「岸和田消防のあゆみ」	
	11月	寺田甚与茂没。寺田教育基金設立される	四/414	
		岸和田市、並松町に公益質屋設置。	四/613	
	12月	寺田甚吉、岸和田紡績社長就任。	四/566	
岸和田高等女学校卒業生の井上千代子が、夫(陸軍中尉)の出征にあたり自刃。		四/488		
1932年(昭和7)	1月	井阪豊光市長辞任。	四/404	
	2月	井阪豊光、第18回衆議院議員総選挙で当選。次いで市長に再任される。	四/405	
	5月	塵芥焼却場できる(土生郷村作才。野田町との境界付近)。	五/359	
	10月	寺田甚吉、岸和田紡績(株)の創設者寺田甚与茂の偉業を記念し、岸和田紡績の倶楽部として自泉会館建設。	四/494	
1933年(昭和8)	5月	井阪豊光市長辞任。	四/406	
		日本基督教婦人矯風会岸和田支部結成。	四/621	
	7月	覚野勝三郎市会議長就任。	四/544	
		川崎正一市長就任。	四/406	
	9月	私立大阪商工学校、大阪市北区から藤井町に移転。	四/486	
	11月	岸和田市、市営事業として岸和田港第1期修築工事着工。	四/588	

1934年(昭和9)	2月	岸和田市立実業補習学校、岸和田市立商業専修学校と改称。	四/485	
	3月	岸和田煉瓦の労働者、賃上げを要求し争議。	四/473	
	4月	春木尋常高等小学校分教場が春木北尋常小学校となる。	四/付図	
	6月	北町郵便局開局。	四/418	
		宮本町に岸和田郵便局電話分室を設け、米国製ストロージャ式自動交換機設置。	四/418	
		岸和田紡績野村分工場寄宿舎で、差別を受けた女性労働者がストライキを行う。	四/472	
		並松町の公益質屋開業。	四/613	
9月	21日、室戸台風襲来。浜尋常小学校・東光尋常高等小学校・府立岸和田中学校等校舎倒壊。岸和田市内(当時)の罹災家屋1495戸・罹災者6,095人・死者5人。	四/436		
この年	和泉銀行、和泉貯蓄銀行を合併。	四/424		
1935年(昭和10)	4月	西福寺境内の託児所を町立春木幼稚園とする。	四/679	
		野上和三郎、山直町田治米に東洋鉄管継手株式会社(現、日本鋼管継手株式会社)創立。	四/435	
		青年訓練所、実業補修学校と統合し、青年学校とする。	四/489	
		八木(後、大町)郵便局開局。	四/418	
		岸和田市立商業専修学校、公立青年学校岸和田商業専修学校と改称。	四/485	
	5月	泉南郡南掃守村加守組合設立、耕地整理に着手。	四/427	
	7月	山直上村、山直下村を廃し山直町をおく。	四/付図	
	9月	阪和電鉄、阪和岸和田駅(現、東岸和田駅)を中心に、南海岸和田駅・土生滝・河合・水間観音を結ぶバス路線(葛城線)運行開始。	四/417	
	10月	公立青年学校岸和田商業専修学校、甲種商業学校として文部大臣の認可を受け、岸和田市立商業学校に改称。	四/485	
	11月	山直尋常高等小学校を山直北尋常高等小学校に、稲葉尋常高等小学校を山直南尋常高等小学校に改称。	四/付図	
	この年	岸和田銀行、岸和田貯蓄銀行を合併。	四/424	
愛国婦人会、浄福寺(箕土路)に農繁期託児所を開設。		四/619		
1936年(昭和11)	4月	私立大阪商工学校、私立南海商業学校となる。(昭和23年3月廃校)	四/486	
	5月	和泉紡績、東洋紡績への吸収合併に調印。和泉紡績労働者が合併に反対し、争議。	四/474	
	9月	川崎正一市長辞任。	四/408	
		和泉紡績、東洋紡績に吸収合併。	四/571	
	11月	岸城郵便局開局。	四/418	
市会で金納源十郎を市長に選出するも、金納が辞退。		四/523		
	1月	「岸和田市、泉南郡春木町、山直町、南掃守村、八木村、土生郷村、六市町村実費診療病院並伝染病院」設立。	四/561	八/592

1937年(昭和12)	2月	春木町、八木村を廃し、春木町を設置。	四/付図	
		八木尋常高等小学校、高木尋常高等小学校と改称。	四/付図	
	3月	原藤右門、春木町長就任。	「大阪朝日新聞」	
	4月	南海和泉大宮駅開業。	四/587	
		南掃守家政女学校設置。	四/667	
	6月	久米田池の南堤防決壊。	四/622	
	8月	町民の寄付により山直北尋常高等小学校講堂竣工。	「大阪朝日新聞」	
	10月	竹崎米吉市長就任。	四/528	
		岸和田市自治振興委員会規程・岸和田市町会規程準則を制定。(町内会・隣組の成立)	四/538	八/594
この年	春木町、公益質屋設置。	四/613		
1938年(昭和13)	3月	土生郷村を岸和田市に編入。	四/533	
		土生郷尋常高等小学校、岸和田市旭尋常高等小学校に改称。	四/付図	
	4月	南海鉄道が傍系バス会社を統合し、南海乗合自動車株式会社設立。	四/587	
	5月	「牛滝山」が府名勝に、「大島邸びゃくしん」(包近町)が府天然記念物に指定される。	五/375	
		久米田池水利組合結成。	四/623	
	7月	泉南郡南掃守村組合設立、耕地整理に着手。	四/427	
		濱田耕作(青陵)没。	「濱田耕作著作集」	
	11月	岸和田港第1期改修工事竣工。	四/589	
12月	岸和田愛市聯盟結成。		八/841	
1939年(昭和14)	2月	福本太郎市会議長就任。	四/544	
		岸和田市、千亀利公園にて紀元節奉祝大会を開く。		八/845
		「久米田寺境内」が府史跡に指定される。	五/375	
		南掃守村健康保険組合設立。	四/561	
	4月	警防団令により防護団及び消防組を改組して警防団を組織。岸和田警防団(6分団)、春木警防団(4分団)、山直警防団(2分団)、南掃守警防団(6分団)、有真香警防団(6分団)、東葛城警防団(分団なし)発足。		八/611
	4月	修斉尋常小学校に高等科併置、修斉尋常高等小学校とする。	四/付図	
	11月	上水道敷設事業(流木・津田川案)が認可される。	「岸和田市水道史」	
この年	南木荘(後、五風荘)竣工。	四/496		
	2月	岸和田中学運動場で紀元2600年奉祝式典実施。	四/604	

1940年(昭和15)	3月	五十一・寺田・岸和田・和泉・貝塚の5銀行合併、阪南銀行となる(後に住友銀行に合併)。	四/582	
	4月	春木北尋常小学校に高等科を併置し、大芝尋常高等小学校と改称。	四/付図	
		竹崎米吉市長辞任。寺田利吉、名誉職市長に就任。	四/545	
	5月	市立託児所を市立北保育園と改称	四/616	
	6月	東葛城村・有真香村を岸和田市に編入	四/548	八/554
		岸和田紡績天津工場操業開始。	四/568	
		土生村に市立旭保育所開所。	四/616	
		堺市を除く泉州各市町村、府営水道敷設期成同盟会結成。	「岸和田市水道史」	
	7月	佐野漁民が岸和田漁区内で不法に機船底曳網漁を行ったとして、岸和田と佐野の漁民が抗争。	四/595	八/924
	8月	南掃守(後、下松)郵便局開局。	四/418	
	10月	城内小学校、南上町の新校舎に移転。	四/407	
		藤枝知戒市会議長就任。	「市制60年誌」	
12月	阪和電鉄、南海電鉄道に吸収合併、南海鉄道山手線となる。阪和岸和田駅は東岸和田駅と改称。	四/588		
	岸和田市自治振興委員会規程を廃止し、岸和田市町内会規程発布。		八/612	
1941年(昭和16)	2月	岸和田市立商業学校、第一本科(全日制)を設け、従来の夜間課程を第二本科とする事が文部大臣より認可される。	四/663	
		産業報国会岸和田支部結成。	四/608	八/782
		市立高等実践女学校、市立高等女学校と改称。	四/665	
	3月	市役所庁舎を国道16号線(後の26号線)建設のため取り壊し、市役所は岸城町の旧泉南郡役所跡に移る。	四/369	
		大政翼賛会岸和田支部結成。	四/605	
	4月	国民学校令により各小学校を国民学校と改称。	四/659	
		中央・城内・浜・朝陽青年学校を廃し、干城青年学校を設置。修斉・東葛城青年学校を廃し、関南青年学校を設置。	四/666	
	5月	「久米田池」が府史跡名勝に指定される。	五/375	
	7月	岸和田紡績、大日本紡績(後のユニチカ)と合併。	四/570	
	8月	国道16号線(後、26号線 現、府道堺阪南線)開通。	四/585	
		貝塚町より分水を受け、岸和田市上水道給水を開始。	四/553	
	9月	商工省の命により、旧岸和田紡績本社工場・野村工場・津工場閉鎖。春木工場休止。	四/571	
この年	中之浜町に市立浜保育所開所。	四/616		
	〇日	市立商業学校、別所町へ移転。	四/663	

1942年(昭和17)	4月	岸和田市・春木町・山直町・南掃守村より内務大臣へ合併上申書を提出。	四/556	八/558
	4月	岸和田市、春木町、山直町、南掃守村が対等合併し、岸和田市とする。	四/554	
		大阪府より地方事務官幸前伸が市長職務管掌として派遣される。	四/557	
		市町村組合立大宮病院を、市立大宮病院と改称。	四/561	
		岸和田市立幼稚園を岸和田市立岸城幼稚園と改称。	四/678	
	6月	合併後第1回市議員選挙。	四/558	
		幸前伸市長職務管掌解職、寺田甚吉名誉職市長就任。福本太郎市会議長就任。	四/559	
	7月	春木若松郵便局開局。	四/418	
	8月	旧岸和田紡績野村工場が大日本工機に譲渡され、航空機部品等を製造する軍需工場となる。	四/571	
	10月	大日本婦人会岸和田支部発足。	四/621	
12月	旧岸和田紡績本社跡に大阪普通海員養成所(後、岸和田普通海員養成所)設立。	四/633		
1943年(昭和18)	1月	南掃守上国民学校を光明国民学校と改称。	四/付図	
		旧岸和田紡績春木工場が東亜金属工業に譲渡され、陸海軍共同管理工場となる。	四/571	
	2月	岸和田共同魚市場設立。	四/581	八/783
	4月	土生町、白原町、南上町、真上町の一部をさいて北阪町とする。	「大阪府告示」	
		出口神暁、流木町の自宅に鬼洞文庫設立。	四/493	
	8月	「岸和田城跡」が府史跡に指定される。	五/375	
	9月	寺田甚吉名誉職市長辞職。勅裁を経て福本太郎市長就任。	四/562	
		寺田元之助、関西製綱・東洋麻絲紡織・佐野紡績・泉州織物を統合し、帝国産業株式会社(後のテザック)設立。	四/570	
		覚野真三市会議長就任。	「市制60年誌」	
	11月	土生郵便局開局。	四/418	
12月	寺田甚吉、自泉会館を市に寄付。	四/495		
	岸和田商工会が岸和田市経済協会となる。	四/581		
1944年(昭和19)	1月	高島屋岸和田出張店閉店。	四/422	
	3月	市立商業学校、私立南海商業学校と合併し、岸和田市立工業学校と改称。	四/663	
		中央・土生郷・有真香・東葛城・春木・南掃守・山直下・山直上・八木農業会設立。	四/593	
5月	南海山手線が国有化され、国鉄阪和線となる。	四/588		
	5月	春木青年学校を廃して、干城青年学校と合併。図南・山直・南掃守青年学校を統合し、市立光明青年学校とする。	四/666	

1944年(昭和19)	6月	南海鉄道と関西急行鉄道が合併し、近畿日本鉄道株式会社となる。	四/588	
	7月	私立鳩巣園閉園。	四/678	
	9月	この頃より、学童が大阪市から岸和田市内に疎開始める。	四/684	
		西田俊信市会議長就任。		「市制60年誌」
	10月	筋海町に市立病院中央診療所設置。		「市制40年誌」
	11月	高木国民学校、八木国民学校と改称。	四/付図	
1945年(昭和20)	2月	4日、岸和田に初めて空襲。春木大小路・下池田・三田・岡山町等被弾。	四/652	八/850
		岸和田市、大阪府へ生鮮食糧品総合共販所設置を要望。		八/623
	3月	17日・19日、空襲。阿間河滝・福田町、岸和田港沖等被弾。	四/653	八/853
		南掃守国民学校加守分教場廃校。	四/付図	
	4月	旧南海商業学校校舎を利用し、岸和田市大宮国民学校設立。	四/685	
		防空法による建物疎開始まる。	四/586	
	6月	大阪府警察部消防課直属の岸和田特別消防出張所設置。		「岸和田消防のあゆみ」
	7月	10日、空襲。沿岸部被災。中之浜町だんじり焼失。	四/655	八/854
		阪南銀行、住友銀行と合併。	四/583	
	8月	8日、空襲。	四/656	
12月	筋海町に私立聖母幼稚園設立。	五/217		
	岸和田市、全市民に正月用白米を無償で配給。	五/13	八/868	
1946年(昭和21)	1月	岸和田市教員組合結成。中央国民学校で結成大会を開く。	五/94	
		この頃、在日本朝鮮人連盟が岸城幼稚園内に国語講習所を開く。(後、堺町に移転)	五/379	
	3月	福本太郎市長辞職。	五/19	
		岸和田市立工業学校が岸和田市立商業学校と改称。	五/205	
	4月	大阪府岸和田消防署設置。	五/33	
		岸和田消防署山直出張所設置。		「岸和田消防のあゆみ」
	5月	小島朝一市長就任。	五/20	
	6月	市議会、運輸大臣と大阪府知事に港湾改修に関する意見書提出。		八/796
9月	戦争のため昭和18年を最後に中止されていた岸和田祭が復活。	五/558		
9月	毛利一郎・中澤米太郎らが岸和田スポーツ文化人クラブ結成。	五/582		

1946年(昭和21)	12月	小島朝一、公職追放令により市長辞職。池内幸次郎助役が市長職務代理となる。	五/20	
		岸和田地区・有真香地区・東葛城地区・山直地区・春木地区・南掃守地区各農地委員会設立。農地改革に着手。	五/77	
		南海道大地震。岸和田市の死者5人・重軽傷者10人・全半壊家屋10戸。	五/187	
1947年(昭和22)	1月	城内国民学校、連合軍より新教育の実験学校に指定される。	五/112	
	4月	学校教育法施行により、各国民学校は小学校に改称。	五/92	
		第一中学校(後、岸城中学校)・第二中学校(後、光陽中学校)・第三中学校(後、常盤中学校)・第四中学校(葛城中学校)・第五中学校(久米田中学校)・第六中学校(春木中学校)・泉北郡山滝村立中学校(後、山滝中学校)創立。	五/105	
		初めての公選による市長選挙実施。毛利一郎当選し、市長就任。	五/21	
		日本鍛圧株式会社が私立岸和田工業学校(下松町)開校。(23年市立産業高等学校に吸収合併)	五/206	
		堺市・泉大津市・和泉市・岸和田市・高石市・泉北郡の綿織物・スフ織物製造関係12組合を統合し、泉州織物協同組合設立。(事務所 野田町)	五/166	
		「池田王子跡」(下池田町)が府史跡に指定される。	五/375	
	5月	上野松太郎市議会議長就任。		「市制60年誌」
		岸和田体育連盟結成。	五/582	
		岸和田港第2期修築工事着工。	五/69	
	6月	昭和天皇、泉州へ行幸。	五/66	
		南海電鉄、近畿日本鉄道から分離。	五/181	
		岸和田劇場倒壊。死傷者80人余。	五/187	
	8月	岸和田市接続町村合併研究会設置。	五/28	
南町に岸和田朝鮮人小学校開校。		五/379		
10月	警防団を解消し、岸和田市消防団設立。		「岸和田消防のあゆみ」	
この年	岸和田市生鮮食料品共同販売所設立。	五/46		
1948年(昭和23)	2月	岸和田市と山滝村が「泉北郡山滝村を廃しその区域を岸和田市に編入方申請書」を大阪府へ提出。	五/28	八/571
		岸和田商工会議所設立。初代会頭岸村徳太郎。	五/71	
		岸和田市、教育準備委員会設置。	五/128	
	3月	岸和田市警察署発足。	五/32	
		岸和田市消防本部発足。		「岸和田消防のあゆみ」
		岸和田市立高等女学校廃校。	五/124	
		山直下酪農組合、和泉酪農組合に改組し、岡山町に牛乳処理工場をつくる。	五/701	
		岸和田市、山滝村を編入合併。	五/28	

1948年(昭和23)	4月	鳥本正清市議会議長就任。	「市制60年誌」	
		府立岸和田中学校が岸和田高等学校に、府立岸和田高等女学校が和泉高等学校と改称し、男女共学となる。	五/116	
		岸和田市立商業学校を岸和田市立産業高等学校と改称。	五/119	
		中央・有真香・東葛城・山滝・八木・南掃守各農業協同組合設立。	五/686	
	5月	山直上農業協同組合設立。	五/686	
	6月	土生郷・山直下各農業協同組合設立。	五/686	
	7月	春木農業協同組合設立。	五/686	
	10月	最初の教育委員選挙実施。	五/132	
	11月	岸和田市教育委員会発足。	五/132	
	この年	岸和田市・高石町・泉大津市・貝塚市・泉佐野市が府営水道水敷設期成同盟会結成。	「岸和田市水道史」	
1949年(昭和24)	2月	市内の青果卸・小売業者が岸和田中央青果株式会社設立。	五/46	
		上野町西に市立千喜里保育所設立。	五/49	
	5月	上野松太郎市議会議長就任。	「市制60年誌」	
	6月	岸和田市、広報紙「きしわだの友」発刊。	五/30	
		岸和田市、競輪場設置許可を国に申請。		八/631
	8月	岸和田市・貝塚市・八尾市・吹田市四市競馬組合結成。	五/44	
11月	岸和田朝鮮人小学校閉校。	五/382		
1950年(昭和25)	2月	岸和田市競輪場完成。第1回岸和田市営競輪開催。	五/42	
	3月	流木配水池完成。	「岸和田市水道史」	
		常盤中学校閉校。	五/107	
	4月	山直南小学校と旭小学校内に中学校卒業生を対象にした青年教室設置。	五/224	
	5月	岸城町の協和銀行跡に岸和田市公民館設立。	五/225	
		並松町に市営卸売市場開設。	五/46	
	8月	久米田寺所蔵の「楠家文書」「大塔宮令旨」「久米田寺文書」「絹本着色星曼荼羅図」、岸城神社所蔵の「刀」が国の重要文化財に指定される。	五/375	
	9月	ジェーン台風襲来。岸和田市の死傷者685人・罹災家屋3443戸・罹災者16572人。	五/187	
		大阪府立泉家畜保健衛生所(後、岸和田家畜保健衛生所 岡山町)設置。	五/702	
10月	この頃より、上水道配水管を石綿管から铸铁管に敷設替え始める。	「岸和田市水道史」		
1日	流木墓地完成。(2月最初の市営葬儀を行う。)	五/49		

1951年(昭和26)	1月	泉州銀行設立。(2月営業開始)	五/177	
	2月	市議会、警察制度改正に関する意見書を国に提出。		八/643
	4月	市長・市議会議員選挙。毛利一郎市長再選。	五/141	
		岸和田市婦人会協議会結成。	五/227	
	5月	青木見一郎市議会議長就任。	「市制60年誌」	
	7月	田治米町に市立山直北保育所設立。	五/50	
	10月	岸和田市自治振興委員会発足。	五/143	
1952年(昭和27)	3月	毛利一郎市長辞職。	五/147	
	4月	和泉酪農組合、大阪府酪農農業協同組合と改称。	五/701	
	5月	福本太郎市長就任。	五/149	
	6月	中井町に受水場設置し、府営水道(淀川の沈殿水)を受水、春木地区に給水。	五/512	
	7月	集中豪雨により、家屋全壊9戸・流失3戸・半壊12戸・床上または床下浸水3517戸。	五/188	
	8月	岸和田市立産業高等学校が産業教育研究校に指定される。	五/207	
	9月	岸和田市立葛城中学校が産業教育研究校に指定される。	五/208	
		岸和田市青年団協議会結成。	五/225	
	11月	泉州織物調整組合(後、泉州織物構造改善工業組合)設立。	五/166	
	12月	岸和田港振興協会設立。	五/265	
1953年(昭和28)	1月	杉本安太郎市議会議長就任。	「市制60年誌」	
	3月	岸和田市工場設置奨励条例公布。(昭和44年3月廃止)	五/541	八/647
	4月	岸和田市消防署春木出張所(春木本町)開設。	「岸和田消防のあゆみ」	
		岸和田市育英奨学会設立。	五/218	
	5月	春木宮川町の旧春木町役場を岸和田市公民館春木分館とする。	五/223	
	6月	春木中町に私立双葉保育所設立。	五/50	
	7月	八木地区公民館(大町)開館。	「公民館のあゆみ」	
	8月	市議会、牛滝ダム建設を国に陳情。		八/650
	10月	筋海町の市立病院中央診療所を沼町へ移転し、市立病院附属診療所と改称。	「市制40年史」	
	11月	岸和田市、覚醒剤撲滅対策委員会設置。以後、全国的な覚醒剤撲滅運動が展開。	五/199	
1953年(昭和28)	12月	岸和田城本丸に八陣の庭完成。(重森三玲設計)	五/161	

1953年(昭和28)	12月	土生受水場竣工。			「岸和田市水道史」	
1954年(昭和29)	2月	市議会、警察法改正反対に関する決議を可決。			八/652	
	3月	府営水道浄水、岸和田市へも通水開始。			「岸和田市水道史」	
	5月	大阪府酪農農業協同組合、近畿2府5県の酪農協からも出資を受け、関西酪農協同株式会社設立。(39年日本酪農協同株式会社。商標「毎日牛乳」)	五/701			
	6月	近江絹糸岸和田工場(西大路町)ほか各工場で労働争議。	五/190		八/925	
		岸和田市議会、原水爆製造実験禁止を決議。	五/197			
	7月	新警察法により、岸和田市警察署が大阪府警岸和田署となる。	五/151			
11月	新岸和田市庁舎(現、市役所旧館)開庁。	五/157				
	岸和田城天守閣、市立図書館として再建。	五/161				
1955年(昭和30)	1月	市議会、「競輪平日開催の禁止乃至は制限に対する反対決議」可決。			八/656	
	3月	阿間河滝簡易水道竣工。(6月給水開始)			「岸和田市水道史」	
		岸城中学校、夜間学級の生徒に初めて卒業証書を授与。	五/717			
		岸和田市消防団解散。				「岸和田消防のあゆみ」
	4月	岸和田市水防団結成。				「岸和田消防のあゆみ」
		加守町に市立大宮保育所設立。	五/50			
		覚醒剤撲滅に尽力したとして、岸和田市議会へ厚生大臣から感謝状贈呈される。	五/362			
		岸和田市文化財保護専門委員設置規則施行。	五/373			
	5月	東京為三郎市議会議長就任。				「市制60年誌」
	6月	市議会に隣接市町村合併調査委員会設置。福本市長、泉大津・忠岡・貝塚・熊取・泉佐野・田尻各市町に、合併に関する総合調査機関設立を申し入れる。	五/258			
		久米田寺所蔵の「北畠覚空書状」「絹本着色仁王経曼荼羅図」「絹本着色安東蓮聖像」が国の重要文化財に指定される。	五/375			
	8月	4市3町合併問題を協議するため、阪南都市連絡協議会(後、阪南都市合併調査協議会)設置。	五/259			
9月	市議会、大阪湾浄化と漁民対策のため、漁業対策特別委員会設置。	五/341				
11月	泉南13市町村が加わる大阪湾浄化促進協議会発足。	五/342				
12月	野田町自治振興会、岸和田市へ塵埃焼却場移転を請願。	五/359		八/871		
1956年(昭和31)	3月	大阪湾浄化促進協議会、大阪府へ大阪湾水質浄化を請願。	五/342			
		岸和田市立病院に結核病棟(100床)建設。	五/518			
	4月	岸和田市長選挙。福本太郎市長再選。	五/250			
	4月	岸和田市消防署東葛城特別出張所開設。			「岸和田消防のあゆみ」	

1956年(昭和31)	5月	岸和田市、財政再建団体となる。	五/254	
		岸和田地区労働組合協議会発足。	五/321	
		摩湯山古墳(摩湯町)、国史跡に指定される。	五/375	
		内畑西堂簡易水道竣工し、給水開始。	「岸和田市水道史」	
	6月	岸和田市議会、米軍による沖縄の土地接収問題に関する決議を可決。	五/315	
	8月	岸和田市、岸和田藩薬園跡(岸城町)ほか25件を文化財に指定。	五/376	
	9月	岸和田競輪場で、沖縄土地問題解決促進阪南地区大会開催。	五/316	
	12月	自治庁、岸和田市の財政再建計画を承認。	五/256	
1957年(昭和32)	2月	阪南都市合併調査協議会総会で、まず岸和田市以南の3市2町の合併問題を協議することが承認される。	五/260	
	3月	岸和田市議会、クリスマス島における水爆実験阻止に関する決議を可決。	五/317	
	4月	岸和田市、「西向寺のいぶき」(土生町)・「大威徳寺の千両楓」(大沢町)を市文化財に指定。	五/376	
	5月	岸和田市議会、大阪府議会へ「岸和田市域内海岸線埋立て方に関する請願書」提出。	五/268	八/657
	8月	岸和田競輪場で、原水爆禁止岸和田市民大会開催。原水爆禁止岸和田協議会結成。	五/319	
	9月	福田簡易水道竣工、給水開始。	「岸和田市水道史」	
	12月	山口織布株式会社(西大路町)争議。	五/324	
1958年(昭和33)	2月	岸和田・貝塚・熊取・泉佐野・田尻3市2町の合併協議が不調に終わる。	五/263	
		岸和田市教職員組合、勤務評定反対を掲げて闘争。以後、翌年まで教育界混乱。	五/327	
	4月	讃岐幸次郎市議会議長就任。	「市制60年誌」	
		岸和田織布株式会社(下松町)争議。	五/324	
	6月	荒木町に岸和田朝鮮人初級学校(後、南大阪朝鮮初中級学校)開校。	五/385	
	7月	暴力追放市民大会開催。	五/365	
	8月	岸城中学校で原水爆禁止岸和田市民大会開催。	五/319	
	10月	市議会、「暴力排除に関する決議」を可決。	五/366	
1959年(昭和34)	1月	岸和田市議会議員定数を36人から32人とする。	五/264	
	5月	上田松太郎市議会議長就任。	「市制60年誌」	
		土生滝簡易水道竣工。(7月給水開始)	「岸和田市水道史」	
6月	岸城中学校で第1回市民体育祭開催。	五/583		
	6月	岸和田家畜保健衛生所、小松里町に移転。	五/702	

1959年(昭和34)	8月	岸城中学校で原水爆禁止岸和田市民大会開催。	五/319	
		新生活運動連絡協議会結成。	五/367	
		岸和田市、「雨乞絵馬」(夜疑神社所蔵)、「円教寺の蘇鉄」(五軒屋町)を市文化財に指定。	五/376	
	11月	岸和田市職員労働組合、賃上げ要求し、48時間団体交渉行う。	五/337	
1960年(昭和35)	2月	岸和田市、大阪府へ「岸和田港湾域公有水面埋立免許申請書」提出。	五/271	
		天の川浄苑(し尿処理場 磯上町)完成。	五/357	
	3月	臨海工業用地造成事業が府知事より免許される。	五/272	
	5月	春木競馬が大阪府都市競馬組合の主催となる。	五/677	
		古石長三郎市議会議長就任。	「市制60年誌」	
	7月	天の川浄苑操業開始。	五/357	
		市立千喜利青少年会館(堺町 現、きしわだ自然資料館)開館。	「公民館のあゆみ」	
11月	岸和田市、国民健康保険事業開始。	五/516		
1961年(昭和36)	1月	臨海工業地域埋立てに伴う漁業権補償問題が、岸和田・春木・磯上・泉北郡忠岡4漁業協同組合へ岸和田市が補償金を支払うことで解決。	五/391	
	2月	臨海工業用地造成工事着工。	五/391	
	3月	千亀利公園に市民道場心技館建設。	五/583	
	6月	岸田雅春市議会議長就任。	「市制60年誌」	
	8月	岸和田市立病院、市立岸和田市民病院と改称。	五/518	
	9月	第二室戸台風襲来。罹災家屋9670戸・罹災者37265人。	五/395	
	10月	岸和田市民病院本館新築。	五/518	
	11月	市民会館(市立公民館 岸城町)竣工。	五/396	
		福本太郎市長辞職。	五/398	
	12月	市長選挙。中澤米太郎市長就任。	五/400	
中央商店街のアーケード完成。		五/479		
1962年(昭和37)	2月	桜井正夫市議会議長就任。	「市制60年誌」	
		市議会、「交通安全都市宣言に関する決議」を可決。	五/526	
		市議会、「暴力排除に関する決議」を可決。岸和田警察署が宮本町・五軒屋町・北町を暴力排除モデル地区に指定。	五/528	
7月	最初の市民プール(野田プール)完成。	五/583		
	9月	岸和田祭で岸和田駅前のだんじりパレードを始める。	五/574	

1962年(昭和37)	11月	市民会館において市制施行40周年記念式典開催。岡部長景・井阪豊光を初の名誉市民として表彰。	五/414	
		岸和田市職員労働組合と団体交渉に中澤市長が倒れ、市民病院へ搬送される(声の暴力事件)。	五/537	
	12月	岸和田市消防署春木出張所、春木若松町に移転。		「岸和田消防のあゆみ」
1963年(昭和38)	3月	岸和田市議会、議員定数を32人から30人とする。	五/402	
		福本太郎没。岸和田市、福本に名誉市民を追贈し、市民会館にて最初の市民葬を行う。	五/419	
		岸和田市民病院に伝染病院(35床)完成。	五/518	
	4月	市議会議員選挙。	五/420	
	5月	春木久治郎市議会議長就任。		「市制60年誌」
	9月	泉州地方労働組合連合会(泉州労連)発足。	五/553	
	11月	岸和田市、財政再建完了。	五/256	
	12月	府の木材コンビナート建設と市の臨海工業地造成の未補償分を含めた漁業権補償問題が解決。	五/446	
				「岸和田消防のあゆみ」
1964年(昭和39)	2月	木材コンビナート着工。	五/446	
	5月	塵芥焼却場(流木町)操業開始。	五/510	
	6月	留河勝市議会議長就任。		「市制60年誌」
	7月	久米田青少年会館(岡山町)開館。		「公民館のあゆみ」
		岸和田駅前商店街アーケード設置。	五/576	
	8月	野田プールにて第1回市民水泳大会開催。	五/583	
葛城地区公民館(土生滝町)開館。		五/821		
1965年(昭和40)	3月	山直浄水場(山直中町)竣工。		「岸和田市水道史」
	4月	荒木町に八木小学校分校開設。	五/710	
		八木小学校分校幼稚園(後、新条幼稚園)開園。	五/809	
	8月	岸和田地車祭保存会結成。	五/577	
		円教寺(五軒屋町)で明治以来の地車事故犠牲者の慰霊祭を行う。	五/579	
	11月	久米田公園運動広場建設。	五/583	
12月	岸和田市長選挙。中澤市長再選。	五/637		
1966年(昭和41)	1月	中央体育館(作才町)完成。	五/583	
	2月	井阪豊光没。	五/419	

1966年(昭和41)	3月	岸和田市、市民会館にて井阪豊光の市民葬を行う。	五/419	
		岸和田市、「稲葉町薬師堂の榎」「奥家の椋」(阿間河滝町)「大沢神社の杉」「積川神社の椋」を市天然記念物に指定。	五/376	
	4月	八木小学校分校を新条小学校とする。	五/710	
		和泉高校に隔週定時制課程設置。	五/721	
	5月	今木浄水場完成。	「岸和田市水道史」	
		大阪鉄工金属団地協同組合設立。	五/630	
	7月	臨海工業地を臨海町とする。	五/631	
	8月	臨海工業地造成事業竣工。	五/630	
	11月	木材コンビナート完成。	五/633	
この年	久米田チャイルド幼稚園(池尻町)開園。	五/810		
1967年(昭和42)	1月	泉州織物工業組合、泉州織物構造改善工業組合に改組。	五/794	
	3月	めだか共同保育所(春木旭町)開所。	五/669	八/872
	4月	市立青年の家(小松里町)開館。	「公民館のあゆみ」	
	6月	木材コンビナートを新港町・木材町とする。	五/633	
	7月	阪南港開港。	五/634	
	9月	今木町に私立八木保育所設立。	五/50	
	11月	岸和田市婦人会協議会、全国地域婦人団体連絡協議会とともに、地方競馬廃止を自治省に陳情。	五/679	
		泉州卸商業団地協同組合設立。	五/785	
	この年	岸和田いずみ幼稚園(土生町)開園。	五/810	
1968年(昭和43)	4月	下池田町で第二阪和国道区画整理事業起工式を行う。	五/692	
	5月	荒木町に市立新条保育所設立。	五/50	
		大阪府、府営として春木競馬再開を決定。	五/679	
	7月	岸和田市、「意賀美神社社叢」を市天然記念物に指定。	五/376	
	11月	泉州雇用対策協会結成。	五/661	
1969年(昭和44)	3月	中央・土生郷・有真香・東葛城・山滝・山直上・八木・南掃守農協が合併し、岸和田市農業協同組合設立。	五/699	
		山滝地区公民館(稲葉町)・光陽地区公民館(並松町)開館。	五/821	
	4月	八木南小学校・山直中学校開校。	五/712	
	4月	岸城中学校夜間中学が大阪府教育委員会に正式に認められる。	五/719	

1969年(昭和44)	5月	岸城町に私立五風会保育所設立。	五/50	
	6月	岸和田市貝塚市清掃工場完成(貝塚市半田)。	五/511	
	12月	岸和田市長選挙。中澤市長三選。	五/657	
		土生受水場廃止。		「岸和田市水道史」
		岸和田小売市場連合会協同組合設立。	五/783	
1970年(昭和45)	3月	天の川浄苑(磯上町)2期工事竣工。	五/357	
	4月	春木泉町に市立春木保育所設立。	五/50	
	5月	岸和田城内に市立郷土資料館開館。	五/731	
		岡部長景没。	五/420	
	6月	岸和田市、市民会館にて岡部長景の市民葬を行う。	五/420	
		私立山直南保育所(山直中町)設立。	五/50	
		岸和田市同和教育研究協議会設立。	五/818	
	7月	春木体育館(春木泉町)建設。	五/583	
		市立いながわ訓練所(岸野町 現、いながわ療育所)開所。	五/819	
	10月	常盤青少年会館(下松町)開館。		「公民館のあゆみ」
11月	宮前町婦人会、競馬存続反対を決議。以後、競馬反対運動が活発になる。	五/683		
12月	積川神社所蔵「木造男女神像」「篇額」が府文化財に指定される。	五/375		
1971年(昭和46)	2月	市役所新館完成。	五/657	
	4月	小松里町に市立八木南保育所設立。	五/50	
		城北小学校開校。	五/807	
		市立公民館春木分館を春木地区公民館と改称。		「公民館のあゆみ」
	5月	西浦惣太郎市議会議長就任。		「市制60年誌」
		大威徳寺多宝塔が国の重要文化財に指定される。	五/375	
		市立市民憩の家(大沢町)完成。	五/822	
8月	和泉高校、野田町から土生町へ移転。	五/807		
12月	知事提案の春木競馬廃止案、府議会で否決。	五/759		
1972年(昭和47)	2月	府議会、春木競馬再開を可決。	五/762	
	3月	城北地区公民館(吉井町)開館。	五/821	

1972年(昭和47)	4月	野田町に市立東光保育所、吉井町に市立城北保育所設立。	五/50	
		泉州三市五町解放行政推進協議会(後、泉州解放行政推進研究協議会)設立。	五/818	
		箕土路青少年会館(箕土路町)開館。		「公民館のあゆみ」
	6月	山本孝市議会議長就任。		「市制60年誌」
		岸和田市消防署八木出張所(中井町)開設。		「岸和田消防のあゆみ」
	8月	岸和田市解放教育推進協議会設立。	五/818	
	11月	市民会館で市制50周年式典を行う。	五/765	
12月	NHK「ふるさとの歌まつり」で岸和田だんじり祭りが紹介される。	五/765		
1973年(昭和48)	3月	「木造阿弥陀如来坐像」(岸和田市所蔵)・「不動明王座像」(個人蔵)および「山直神社社殿」が府文化財に指定される。	五/375	
		泉州卸団地完成。	五/786	
	4月	城東小学校開校。	五/807	
		城東小学校、府の同和教育研究実験校に指定される。	五/818	
		下松町に市立桜ヶ丘保育所設立。	五/50	
		市議会、泉州沖での関西新国際空港建設反対を決議。	五/748	
		泉州学園泉州高等学校開校。	五/814	
	5月	春木地区公民館・春木勤労青少年ホーム(春木宮川町)改築開館。		「公民館のあゆみ」
	6月	川中安雄市議会議長就任。		「市制60年誌」
		大阪湾のPCB汚染問題で漁業者が休漁。	五/787	
	7月	市長選挙にあたり、日本社会党岸和田総本部と日本共産党岸和田市委員会が政策協定書を締結、原昇を候補として選定。		八/679
		大宮青少年会館(宮前町)開館。		「公民館のあゆみ」
	9月	磯上町に市立大芝保育所設立。	五/50	
10月	市立福祉総合センター(野田町)建設。	五/751		
12月	市長選挙。原昇市長就任。	五/774		
1974年(昭和49)	3月	春木競馬場廃止。	五/765	
	8月	航空審議会、大阪国際空港を廃止し、関西国際空港を泉州沖海上に建設することを答申。	五/751	八/684